70th ANNIVERSARY
共振 MATSUE JC

紡ぐ想い、繋ぐ次代。
共に行こう、
想い描いたその先へ

1956

公益社団法人 松江青年会議所

創立70周年記念誌

2026

JCI Junior Chamber International Matsue

70th ANNIVERSARY
共振 MATSUE JC

CONTENTS

ご挨拶 …… 02
祝辞 …… 03
松江 JC の原像 …… 08
65 年のあゆみ …… 09
歴代理事長とスローガン …… 12
2021 年度から 5 年間のあゆみ …… 13
創立 70 周年記念事業、記念式典・祝賀会、記念講演 …… 24
褒章受賞歴 …… 29
物故会員名簿 …… 30
会員名簿 …… 32
編集後記 …… 33



The Creed of Junior Chamber International

We believe :

That faith in God gives meaning and purpose to human life ;

That the brotherhood of man transcends the sovereignty of nations;

That economic justice can best be won by free men through free enterprise;

That government should be of laws rather than of men;

That earth's great treasure lies in human personality; and

That service to humanity is the best work of life

JCI Mission

To provide leadership development opportunities that empower young people to create positive change.

JCI Vision

To be the foremost global network of young leaders.

JC 宣言

日本の青年会議所は
希望をもたらす変革の起点として
輝く個性が調和する未来を描き
社会の課題を解決することで
持続可能な地域を創ることを誓う

綱領

われわれ JAYCEE は
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうする者、相集い、力を合わせ
青年としての英知と勇気と情熱をもって
明るい豊かな社会を築き上げよう

松江JCビジョン

全ての人が松江を更に愛せるよう
運動を展開します。

松江JCミッション

【邁進】
地域の課題を調べ、
解決に向けて果敢に挑みます。

【追求】
地域のリーダーとなるために常に修練を続け、
より良い松江を創造できる人財を増やします。

【縁】
地域と松江の更なる架け橋となり、
相互の理解を深めます。

平成 27 年 12 月 10 日制定
令和 2 年 11 月 12 日改定
令和 7 年 10 月 9 日改定

松江JCビジョン・ミッション

〈 解 説 〉

松江JCビジョンは、松江青年会議所のあるべき姿です。松江JCビジョンのために、松江JCミッションを実行します。

松江青年会議所は、創立から半世紀以上の長きに渡る先人のご尽力により、松江を素晴らしいまちへと発展させてまいりました。その運動を受け継ぎ、より素晴らしいまちにするために、私達は、地域における多くの課題の中から、私達が取り組むべき課題を選択し、解決に向けて果敢に挑まなければなりません。また、松江という地域の価値を高め、さらに松江を愛する人を増やすためには、私達が率先して行動できる市民となる必要があります。

青年会議所運動において指導力開発（LD）と社会開発（CD）は表裏一体のものです。会員一人ひとりの能力向上を図り、地域に対してリーダーシップを発揮することで社会を前に推し進めていくことが求められています。加えて、我々 JAYCEEを超えて、まちの抱える課題、未来への可能性について共に考え、松江を更に愛する人々を増やしていくことができれば、より良いまちづくりが可能になります。松江青年会議所がまちづくりのフロントランナーとしてより多くの人々に認知されることで、更なる運動の拡大へと繋げることが松江の価値を高めることにつながります。

ご挨拶 Greeting words



公益社団法人
松江青年会議所

第 71 代理事長
落合　彰

公益社団法人松江青年会議所は、本年、創立70周年という大きな節目を迎えることができました。これまで当会議所を支え、地域の発展に尽力されてきた諸先輩方をはじめ、関係諸団体の皆様、そして日頃より活動にご理解とご協力を賜っておりますすべての皆様に、心より厚く御礼申し上げます。

70年前、戦後の混乱の中、松江の明るい豊かなまちづくりを志した青年たちの情熱と、広島青年会議所様の力強いご支援によって、松江青年会議所は全国で100番目の青年会議所として誕生しました。その創始の精神は、時代が移り変わる中にあっても、脈々と受け継がれ、今日の私たちの活動の礎となっています。現在、私たちを取り巻く環境は、人口減少や価値観の多様化、急速なデジタル化など、大きく変化しています。先行きが不透明で、明確な正解を見いだすことが難しい時代だからこそ、青年会議所には、地域の課題を自分事として捉え、仲間と知恵を出し合い、率先して行動する姿勢が求められています。

創立70周年のテーマである「共振～紡ぐ想い、繋ぐ次代。共に行こう、想い描いたその先へ～」には、一人ひとりの志と行動を共鳴させ、その輪を地域へと広げていきたいという想いを込めています。先輩方が築いてこられた歴史と伝統に敬意を払いながらも、過去にとらわれることなく、時代に即した新たな挑戦を続けていくこと。それこそが、私たち現役会員の使命であると考えます。

70年の歩みは、決して私たちだけの力で築かれたものではありません。多くの方々との出会いと支えがあってこそ、今日があります。その感謝を胸に刻み、言葉だけで終わらせることなく、行動をもって松江の未来を切り拓いてまいります。

結びに、松江青年会議所の歩みを支えてくださったすべての皆様に、改めて深く感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、挨拶に代えさせていただきます。

創立以来、70年の永きに渡る先輩諸兄姉のご尽力により、また、市民の皆様、行政の皆様、関係団体の皆様、各地会員会議所の皆様にお支えいただき、公益社団法人松江青年会議所 創立70周年を迎えることができましたこと、心より御礼申し上げます。1956年の創立以来、当会議所は「明るい豊かな社会の実現」を目指し、地域の皆様や関係諸団体の温かいご理解とご支援に支えられながら歩みを進めてまいりました。

創立70周年を迎える本年、私たちはスローガンに「共振～紡ぐ想い、繋ぐ次代。共に行こう、想い描いたその先へ～」を掲げました。先輩方が築いてこられた想いを紡ぎ、未来へ繋ぐために、まず我々青年自身が熱く行動を起こし、その振動を地域全体へ伝播させて巻き込んでいく決意を込め、皆様への感謝と我々の決意をお示しする場として、記念式典と祝賀会を開催し、この共振の波紋を地域に伝播させるために、佐久間宣行氏をお招きしての記念講演を開催いたしました。

また、本年9月には記念事業『MATSUE Re:Design Project―高校生が創る理想のまち―』を開催し、我々が一歩を踏み出すことで、地域を巻き込み、次世代とともに未来への変革を起こす挑戦を展開してまいりました。高校生が自ら考えたものを、地域の大人と協働し、想い描いた未来を発信する機会となりました。

私たちが迎えた創立70周年という節目は、決してゴールではなく、次代への希望あふれる未来の扉を開く大切な起点であります。松江青年会議所はこれからも、時代の変化を恐れることなく、地域に真に必要な価値を模索し、持続可能なまちの発展に向けて積極的な挑戦を続けてまいります。

結びに、これまで培われた皆様との尊い絆が今後とも末永く継続しますことを切に願いますとともに、これから未来へ向けて歩みを進める松江青年会議所に対し、なお一層のご指導ご鞭撻と、温かいご支援・応援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。



公益社団法人
松江青年会議所

70 周年実行特別委員会
実行委員長
宮田佳祐

祝辞　Congratulatory message



島根県知事
丸山達也

公益社団法人松江青年会議所が、創立70周年の大きな節目を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

松江青年会議所は、昭和31年の創立以来、長きにわたり、文化、経済、環境問題など様々な角度からまちづくりを実践され、「明るい豊かな社会」の実現に多大な貢献をしてこられました。皆様のご尽力に、深く敬意を表します。

さて、最近の経済情勢を見ますと、エネルギー価格・物価の高騰、賃上げや人手不足に加え、中東情勢の緊迫化による原油や石油由来の製品の価格高騰や供給不足など、依然として厳しい状況が続いております。このような中、皆様におかれましては、地域を支える中心的な役割を担い、日頃より積極的に活動されていることに感謝申し上げます。

県としましては、県内企業の賃上げに資する原資の確保、物価高騰への対策や生産性向上の支援、働き方改革の推進等を通じて、誰もがいきいきと働き続けられる活力ある職場づくりの推進に努めてまいります。

松江は、国宝松江城を中心とした歴史ある城下町であり、宍道湖、中海など豊かな自然や、茶の湯文化や小泉八雲ゆかりの文化などの魅力ある観光資源、そして高度な技術を有する企業、優れた農林水産品など、豊富な地域資源も有する地域です。松江青年会議所の皆様には、松江地域のみならず、島根の未来を牽引するリーダーとして、引き続き県の施策に対する一層のご理解と、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

また、令和9年には一般社団法人化を予定されており、これまで以上に幅広い活動を展開され、組織としてさらなる飛躍を遂げられることを願っております。

結びに、松江青年会議所の益々のご発展と、皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げ、お祝いのご挨拶といたします。

このたび、公益社団法人松江青年会議所が創立70周年を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。

貴会議所は、昭和31年に日本で100番目の青年会議所として創立されて以来、「松江を明るい豊かな社会にしたい」という思いを実現すべく、文化・経済・環境などさまざまな角度から松江のまちづくりを考え、先駆的な活動を実践してこられました。

その志や「DNA」は、現在もしっかりと受け継がれており、私たちの生活に豊かさを与えてくださっています。

今年5月には、シャボン玉が織り成す幻想的な空間を楽しむ「Shinjiko Bubble Festival!!」を初めて主催され、こどもたちをはじめ5千人が宍道湖畔で「非日常」を楽しみました。水辺空間の利活用によって、宍道湖の魅力が増し、豊かな生活環境に磨きをかけていただきました。

また、6月には、小学生を対象にした1泊2日の体験型キャンプイベント「めざせ、ミッションコンプリート～ミッションキャンプ～」を催されました。仲間と協力して「防災ミッション」などの課題解決に取り組むこの活動は、参加した50人のこどもたちの主体性や協調性を育む貴重な機会となったものと確信しています。

そして、9月には、「MATSUE Re:Design Project」と題して、高校生が「10年後帰ってきたいと思えるまち」を考えることをテーマに、最新のデジタル技術を活用した未来と、松江の文化・伝統を体験できるイベントを開催され、参加された高校生を含め、2千人を超える来場者で賑わいました。

主催された貴会議所の皆様から刺激やヒントを受け取り、多くの気づきを得たこどもたちが、将来、本市のリーダーとして活躍してくれることを、大いに期待しております。

本市としても、松江市総合計画「MATSUE DREAMS 2030」に掲げる将来像「夢を実現できるまち 誇れるまち 松江」の創造に力を尽くしてまいりますので、引き続き、志を同じくする貴会議所の皆様の力強いご支援をお願いいたします。

結びに、松江青年会議所が創立70周年を契機に、賑わいと活気にあふれる松江の未来を育むべく、さらなる発展を遂げられますこと、ならびに会員の皆様がそれぞれの強みを生かしてますますご活躍されますことを祈念しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

松江市長
上定昭仁



祝辞 Congratulatory message



松江商工会議所

会頭

田部 長右衛門

公益社団法人松江青年会議所が創立70周年という記念すべき節目を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。

昭和31年、日本で100番目の青年会議所として誕生されて以来、70年の長きにわたり、諸先輩方から脈々と受け継がれてきた高い志のもと、地域社会の発展と「明るい豊かな社会」の実現に向け、時代に先駆けた運動を展開してこられました。その歩みに深い敬意を表します。

今日、私たちの地域は、人口減少や少子高齢化、人手不足、産業構造の変化など、大きな転換期を迎えています。一方、デジタル技術の進展や国内外との交流の広がりなど、地域の新たな可能性を拓く機会も生まれています。

こうした時代だからこそ、既成概念にとらわれず未来を描き、自ら考え、行動を起こす青年経済人の力が、これまで以上に求められています。

松江青年会議所が70年にわたり育んでこられた人材と、地域に根ざした幅広いネットワークは、松江にとってかけがえのない財産です。これまで築かれた歴史を礎に、若い世代ならではの発想と行動力によって、新たな価値を生み出していかれることを大いに期待しております。

松江商工会議所も、世代や組織の垣根を越えて皆様と力を合わせ、新たな産業や交流を生み出し、次代を担う若者が夢と誇りを持って挑戦できる地域を、ともにつくってまいりたいと考えております。

創立70周年が、これまでの歩みを未来への力に変え、松江青年会議所のさらなる挑戦への新たな出発点となりますことを心より祈念し、お祝いの言葉といたします。

平素より公益社団法人日本青年会議所の運動に対しまして、多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度は、公益社団法人松江青年会議所創立 70 周年、誠におめでとうございます。

70 年という長きにわたり、地域社会の発展と明るい豊かな社会の実現に向け、時代の変化と向き合いながら、たゆまぬ運動を展開されてこられましたことは、歴代の先輩諸兄姉の熱き志と弛まぬ努力の賜物であり、心より敬意を表します。これまで築き上げられてきた歴史と伝統、そして地域への深い愛情は、今日の松江青年会議所の確かな礎となり、次代を担う青年たちへと受け継がれていることと存じます。

貴青年会議所の皆様におかれましては、2026 年度 第 71 代理事長 落合彰君のもと、創立 70 周年の節目に「共振～紡ぐ想い、繋ぐ次代。共に行こう、想い描いたその先へ～」との 70 周年スローガンを掲げ、これまで紡がれてきた想いを次代へつなぎ、さらなる未来へ歩みを進められております。先輩諸兄姉から受け継いだ志を胸に、会員一人ひとりが互いに共鳴し、地域とともに新たな価値を生み出していく皆様の挑戦が、松江市の未来にさらなる希望と活力をもたらすものと確信しております。

2026年度の日本青年会議所は、「真の心が生み出す 幸せな国 日本へ」の基本理念のもと、家庭や地域といった身近な暮らしの場から、国民一人ひとりが未来に希望を抱き続けられる社会の創造を目指し、全国各地で運動を展開しております。

結びに、公益社団法人松江青年会議所のさらなるご発展と、地域における運動が大きな成果として結実いたしますこと、並びに会員各位のご健勝ご活躍を心よりご祈念申し上げます。

True Mind True Hope

幸せな未来へ

公益社団法人
日本青年会議所

会頭

加藤 大将



祝辞　Congratulatory message



公益社団法人
日本青年会議所
中国地区協議会

会長
江角彰則

公益社団法人松江青年会議所がこのたび創立70周年の記念すべき日を迎えられたことに心よりお祝い申し上げます。1956年に全国で100番目の青年会議所として創立された貴青年会議所は、文化、経済、環境問題など様々な角度から地域に根ざした運動を通じて、松江の発展に大きく貢献をされてこられました。松江の地に青年会議所を興され、その礎を築かれた先輩諸氏をはじめ、日頃お支え頂いております関係各位のご支援に深く敬意を表します。

本年度は落合彰理事長のもと「一期一会 共に行こう！同じ志で！」のスローガンを掲げ、高齢化に伴う後継者不足や人口減少などの課題を抱えるなか、まちにより良い変化をもたらすために、一人ひとりが意識を変革し、指導力と行動力を発揮できる運動を展開しておられます。中国地区協議会も「ともに挑戦し幸せな中国地区をつくる」を基本方針に掲げ、総合連絡調整機関として広域連携による次代の人財育成、防災、国際の機会創出に邁進しております。中国地区の各地でも人口減少は喫緊の課題であります。誇りある地域を次代へつなぎ、安全安心な社会を築くには「明るい豊かな社会の実現」を理想とし、自己研鑽し続ける私たち青年会議所の存在が必要です。70年の長きに亘り受け継ぐ先人たちの熱き想いを次代へと継承し続けるとともに、地域の皆様と次なる一歩を力強く踏み出すことによって、松江に暮らす人々が未来に希望を持ち続け、笑顔であふれ魅力ある松江の実現を期待しております。

結びに、この輝かしい公益社団法人松江青年会議所の尚一層のご発展と、会員の皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

公益社団法人松江青年会議所メンバーの皆様、そして70年にも渡り松江青年会議所並びに地域を守り続けてこられた先輩諸兄姉の皆様、創立70周年という素晴らしい歴史を刻まれる記念の日を迎えられましたこと心よりお喜び申し上げます。1956年に全国で100番目の青年会議所として創立された貴青年会議所は、地域に根差した運動を通じて松江のまちの発展と人財育成に大きく貢献をしておられます。その礎を築かれた先輩諸氏をはじめ、日頃お支えいただいております関係各位のご理解ご支援に深く敬意を表します。

本年は、落合彰理事長が掲げられます「一期一会　共に行こう！同じ志で！」のスローガンのもと、地域の課題を解決するために様々な運動を展開されていることと存じます。今後もメンバーの皆様が、仲間との出会いを大切にし、高い志をもち共に足並みを揃え、新たな挑戦をし続けることと思います。そして、松江青年会議所が展開する地域を振るわせる運動によって、明るい豊かな社会の実現へと前進いたしますことをご祈念しております。

島根ブロック協議会では「真の心で果敢に挑む愛あふれる幸せな島根の創造」の基本理念のもと、2026年度の運動を展開しております。真の心で様々な課題に向き合い、果敢に挑戦する人財を育成すること、家族愛や郷土愛にあふれ、仲間との友情を大切にし、誰もが幸せと感じられる島根を創造するために今後も運動を展開してまいります。

結びに、松江青年会議所が今後も輝かしい活躍の歴史を積み重ねられますこと、先輩諸兄姉並びにメンバーの皆様のご多幸とご健勝、更なるLOMのご発展を心よりご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

公益社団法人
日本青年会議所
中国地区島根ブロック協議会

会長
三島裕貴



祝辞 Congratulatory message



一般社団法人
広島青年会議所

理事長
山下竜一

公益社団法人松江青年会議所様におかれましては、創立70周年の佳節をお迎えになり、スポンサーJCとして貴会の設立に携わらせて頂いたものとして、心よりお祝い申し上げます。

貴会は昭和31年、日本で100番目の青年会議所として設立されて以来、山陰の中核都市・松江の地にあって70年の長きにわたり「明るい豊かな社会」の実現を目指してこられました。その間、夏の風物詩「松江だんだん」の立ち上げや、水の都と称される堀川の景観づくりへの挑戦など、幾多の事業を通じて社会の発展に大きく貢献されています。これもひとえに、歴代理事長をはじめ諸先輩方の弛まぬご努力と、会員各位の情熱の賜物と、心より敬意を表します。

落合彰理事長は本年度、「一期一会 ～共に行こう！同じ志で！」をスローガンに、同じ志を持つ仲間との出会いを大切に歩みを進めておられます。奇しくも創立70周年記念スローガン「共振 紡ぐ想い、繋ぐ次代。共に行こう、想い描いたその先へ」とも「共に行こう」で響き合い、象徴的な記念事業「高校生が創る、理想のまち～ MATSUE RE:DESIGN PROJECT～」では、高校生自身の手で理想の松江を描く挑戦が進められています。私ども広島青年会議所も本年度「夢翔」を掲げ、変化を恐れず共に翔け上がる仲間づくりに挑む者として、この挑戦に深く共感し、大いに勇気づけられております。中国地区の同志として、70年前に結んだ絆をこれからも大切に紡ぎながら、共に手を携えてまいりたいと存じます。

結びに、貴会のますますのご発展と会員各位のご健勝、そして松江のまちの限りない繁栄を心よりご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

公益社団法人松江青年会議所の皆様、創立70周年、誠におめでとうございます。

貴会議所が1956年の設立以来、宍道湖をはじめとする豊かな自然と、歴史・文化が息づく地において、地域の課題に真摯に向き合い、より良い社会の実現に向けて情熱を持って歩みを進めてこられましたことに、心より敬意を表します。

70年という長きにわたる歴史は、歴代の理事長をはじめとする諸先輩方が、時代の変化に挑み、地域の未来を思い、行動を積み重ねてこられた証であり、その崇高な志が脈々と受け継がれてきたからこそ、今日の輝かしい70周年を迎えられたものと存じます。

同じ志を胸に活動する青年会議所の仲間として、地域に寄り添い、変革の先頭に立ち続ける貴会議所の歩みは、私たち一般社団法人宝塚青年会議所にとりましても、大きな刺激であり学びの源となっております。

社会が大きな転換期を迎え、予測困難な変化が続く今だからこそ、私たち青年には、自ら考え、自ら行動し、未来を切り拓いていく責任があります。70周年という節目を新たな出発点として、これまで培われた伝統と先輩方の想いを礎に、貴会議所が次代へ向けてさらなる挑戦を重ねられることを心より期待しております。

地域は異なれど、これからも互いに切磋琢磨し、青年らしい情熱に行動をもって、明るく豊かな社会の実現に向けて共に歩んでまいりましょう。

結びに、公益社団法人松江青年会議所のさらなるご発展と、メンバーの皆様のご健勝、ならびに松江のまちの限りない繁栄を心よりご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

一般社団法人
宝塚青年会議所

理事長
片野泰敬



祝辞 Congratulatory message



公益社団法人
浦添青年会議所

理事長
神田 誠志朗

公益社団法人松江青年会議所が創立70周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

1956年の創立以来、地域の未来を想い、青年の英知と勇気と情熱をもって、松江のまちづくりと地域社会の発展に尽力されてこられた貴青年会議所の長きにわたる歩みに、心より敬意を表します。

私たち公益社団法人浦添青年会議所と松江青年会議所とのご縁は、昭和56年に当時の先輩諸兄姉が友好JCの締結をされたことに始まります。以来、45年にわたり、沖縄と松江という遠く離れた地域において、それぞれの地域の発展を願い活動する青年同士が、互いの地域や文化を知り、学び、友情を育みながら、今日までその絆を紡いでまいりました。

時代が移り変わり、社会を取り巻く環境が大きく変化する中においても、青年会議所が掲げる「明るい豊かな社会の実現」という志は、世代を超えて受け継がれる大切な使命であります。これまで先輩方が築いてくださった友好の絆は、私たち現役世代にとってかけがえのない財産であり、これからの未来を切り拓く大きな力であると確信しております。

創立70周年という輝かしい節目を迎えられた今、これまでの歴史と伝統を礎として、松江青年会議所がさらなる飛躍を遂げられますことを心より願っております。私たち浦添青年会議所も、先輩方から受け継いだ友好の絆を大切にし、これからも互いに切磋琢磨しながら、次代を担う青年として、ともに未来を創造してまいりましょう。

結びに、公益社団法人松江青年会議所のさらなるご発展と、会員の皆様ならびに関係各位のご健勝とご活躍を心より祈念申し上げ、創立70周年のお祝いの言葉といたします。

創立70周年、誠におめでとうございます。





松江JCの原像

昭和31年、松江に青年会議所が生まれた。日本青年会議所創立に遅れること5年、わが国はようやく戦後の混乱期を脱し、新しく経済発展の兆しが見えはじめた時期である。すでに松江の若い世代の交流の場として、松江経友クラブが作られていた。その後、広島JCの強力な働きかけもあって、新たに、全国的な組織の下での青年会議所として再生した。

この時期、松江という閉鎖的な地域社会にあって、JCという外に開かれた青年集団が生まれたことは意義深い。「人の人たる所以は人と人との結合にあります。われわれ松江の若い力が、また、努力が結びついたなら、必ずや新しい力の満ちた推進力となることができることを確信いたしております。… JCは政治的に無色であり、あくまでも、ヒューマニティに立脚して、まず友情と訓練によって奉仕への道を開くのであります。われわれは優れた個人であると同時に、秀でた良き団体の一員であらねばと思うのであります。…」

これは、松江青年会議所設立趣意書の一節である。松江JCの創生期ともいうべき時代は、この小文に示されているように、修練・奉仕・友情という3つの信条を運動の基本理念としていた。

1956
1960

『人とのつながり』の時代

会員の親睦と交流、福祉事業

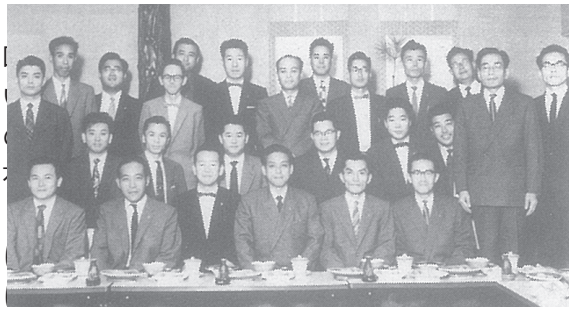
昭和31年11月、松江青年会議所が誕生しました。この時すでに、若い世代の交流の場として松江経友クラブが組織されていましたが、広島JCの積極的な働きかけもあり、57名のメンバーで認証番号100番目のLOMとして発足しました。基本理念に『修練・奉仕・友情』の3つの信条をおき、人と人とのつながりを重点に会員個人個人の人間としての成長を求めていくことが、スタートしたばかりの松江JCにとっての大きなテーマでした。

1961
1965

『めばえ』の時代

JCの綱領の制定、「三信条」から社会開発へ、松江市民憲章

昭和35年の創立5周年の記念すべき年に第10回中国地区大会を主管しました。翌昭和36年には『明るい豊かな社会を築きあげよう』という日本青年会議所の綱領が制定され、その後、市政、県政懇談会、討議会、花いっぱい運動などあらゆる社会開発運動を実施しました。そして、松江JCの呼びかけにより昭和40年に「松江市民憲章」が制定されるなど、三信条を基に社会開発運動への意識が芽生えた時期でした。



1966
1970

『挑戦』の時代

組織固め終了、具体的活動展開

1971
1975

『主張』の時代

社会との関わり、政治・経済

昭和41年、創立10周年を迎え、「社会と人間の開発」というテーマのもと、市民の共感と信頼を得るため本格的な社会開発運動へ参画を始めました。日本青年会議所の様々な活動に呼応して、松江OAAの結成、交通問題、アンケート調査、チャリティーオークションの開催、成人大学、都市の美化運動などが展開されました。

昭和46年には第20回中国地区会員大会を開催しました。この後、市民の共感と信頼を得ることからさらに新たなる活動へと展開し、積極的に政治・経済や行政問題に取り組み、松江JCから意見を発信していくようになりました。かけがえのない郷土シリーズの発刊、中海干拓問題への取り組み、JCスクールの開校、行政改革への問題提起など様々な主張がなされました。昭和48年には、発足当時57名だった会員数も100名を超え、松江青年会議所は社団法人となり、そして昭和50年には宝塚青年会議所と友好JCとなりました。



1976
1980

『具体的行動』の時代

市民と継続事業の発生

1981 - 1985

『継続事業』の時代

事業・組織・こころの硬直化、事業の見直しへ

昭和51年、創立20周年の記念事業として始められた市民まつり『松江だんだん』は、20年間の社会開発運動と指導力開発運動を体系化した事業として、



メンバーをはじめ市民にも強く印象づけた事業となりました。同年にはアメリカ・アーバインJCとの姉妹JCの調印も実現し、従来からの社会開発運動も引き続き発展させる一方、中学生の沖縄洋上セミナーなど青少年の健全育成という『ひとづくり』が展開されました。

着実に地域に認識される存在となり、そして60年代への指針として、『松江市は新観光都市を目指し、松江JCは政策行動集団たれ』という提言がなされました。

1986 - 1990

『まちづくり』の時代

社会開発から「まちづくり」へ ／ まちの特性・個性・郷土愛

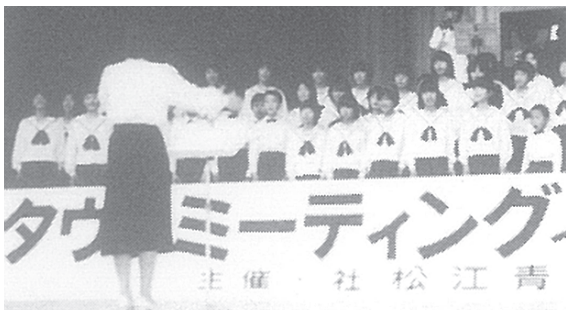
1991 - 1995

『広域ネットワーク』の時代

松江のまちづくりから広域的なまちづくりへ

創立30周年を迎え、新たなまちづくり運動をスタートし、創立30周年の記念行事として開催した『タウンミーティング・イン松江』をきっかけに『まちづくり懇話会』を実施しました。また、前年創立された隠岐JCとの交流を通して、会員同士の交流と資質の向上に大きな効果がありました。昭和62年には第36回中国地区会員大会の開催や昭和63年、第14回島根ブロック会員大会なども開催されました。平成元年には市制施行100周年を記念して松江市より事業委託を受け、中学生のヨーロッパ海外派遣等を実施し、内外より高い評価を受けました。その後も『まちづくり、ひとづくり』という大きなテーマを基に、官民一体となった社会開発運動を展開していきました。また、中海・宍道湖淡水化反対運動を展開したのもこの頃でした。

創立35周年に打ち出した『インフィニティーネットワーク構想』に基づき、松江のまちづくりから、中海・宍道湖圏域の広域的なまちづくりへと進んでいきました。平成6年には初の全国規模の大会である『全国城下町シンポジウム松江大会』を主管開催。平成7年には県境をまたぐ米子・境港・安来・松江の4JCによる合同例会の開催。そして平成8年には『4JC中海アクション会議』をスタートさせました。先駆的な『広域ネットワーク』への取り組みが実践された時代です。





1996 - 2000

『真の価値観創造』の時代

Jaycee としての誇りを持ち、そしてまちづくりから人（こころ）づくりへ

2001
2005

『改革・融合』の時代

このまちの将来と JC の本質を見つめ直す

創立40周年を迎え、宍道湖・中海圏域の広域的なまちづくりの流れを汲み「連携から融合へ～新和のくにづくり～」を提言し、新しい価値の創造に向けた活動が展開されました。記念事業として、「松江・宝塚青少年交流」、「天神神輿·琉球國祭太鼓」の開催、「中海・宍道湖圏域ネーミング公募」等、地域をつなげる事業が実施されました。この広域化の流れは後の平成の大合併に繋がる布石的な活動となり、松江JC内部でも活発に議論されるようになりました。

新松江市となった節目のこの時代は、松江 JC の在り方についても活発に議論がされました。特に平成12年からは公益法人制度改革を見据えた会計処理や事業運営の改革が実行され、この流れは後に「公益社団法人格取得」という決断に繋がっていきます。



2006
2010

『継承・進化』の時代

先人に感謝し、志の継承を誓い、公益法人格取得へ向けて新たな一歩を踏み出した

2011
2015

『脱皮』の時代

組織と人が新たな一歩を踏み出した

2016
2000

『継承・昇華・変貌』の時代

～先人からの想いを継承、そして昇華させ、新たな時代へと挑む～

創立60周年を迎え記念事業として「まつえ水都祭2016」を開催し、水辺を活用したまちづくりについて再認識するきっかけとなりました。

平成29年度には、松江市長選挙に合わせ、公開討論会を開催しました。18歳以上に選挙権年齢が引き下げられ、初めて松江で開催される首長選挙であったことから、これに先立ち、若い世代の方々に向けたワークショップを開催し、自身の住み暮らすまちに対して目を向ける機会を提供しました。

平成30年には「叡智～古今城下町、次代への継承～」のスローガンのもと、「第37回全国城下町シンポジウム松江大会」を開催しました。松江に古くからある優れた歴史·伝統·文化をしっかりと現代に、そして、次代へ繋げていくための大規模な事業を実施しました。

そして2019年5月1日から令和元年がスタートしました。世界と松江の架け橋となるため、ベトナムのHanoi JCと交流を深め、お互いの国を知り、事業に参加し合う交流の末に姉妹JCとしての調印への大きな一歩を踏み出しました。しかし同年12月に新型コロナウイルスが発生し、我々の生活も一変しました。

2020年、JC運動にも様々な制限がかかる中、停滞した市内経済を動かすため、行政や関連団体と連携し「松江GENKI夜市」を実施しました。新型コロナウイルスが社会の歯車を大きく変えたこの年、地域を牽引する青年としての姿を地域に示しました。





歴代理事長とスローガン

（初代～第10代までは日本JCスローガン）

1	初代理事長 松崎　定夫 先輩	青年の力で新しい社会を
2	第2代理事長 松崎　定夫 先輩	世界を結ぶ青年の力
3	第3代理事長 松崎　定夫 先輩	若い力で経済建設
4	第4代理事長 伊原　周造 先輩	JCの力で築こう明るい社会
5	第5代理事長 松崎　定夫 先輩	JCの一人一人が社会の希望
6	第6代理事長 長谷川潤一 先輩	JCは明日の世界の道しるべ
7	第7代理事長 山久瀬茂夫 先輩	経済の正しい成長になえJC
8	第8代理事長 皆美　健夫 先輩	世界の若さで結べ世界は一つ
9	第9代理事長 川本　正明 先輩	新時代築く若さと指導力
10	第10代理事長 泉　昭夫 先輩	福祉国家創るさきがけ果せJC
11	第11代理事長 西村　邦彦 先輩	10周年を認識しよう
12	第12代理事長 野々村　卓 先輩	JCマンとしての認識を新たにしよう
13	第13代理事長 岩田　篤明 先輩	行動で示そうJCの力
14	第14代理事長 宮脇　正夫 先輩	JCの英知で拓け松江の未来
15	第15代理事長 佐藤　充男 先輩	Jayceeと市民で築け70年代の松江
16	第16代理事長 泉　完次 先輩	Jayceeの行動で呼び起そう市民の共感
17	第17代理事長 仙田　一恭 先輩	豊かな環境、繁栄する社会、挑戦しよう若い力
18	第18代理事長 山本　隆志 先輩	共に考え行動しよう このかけがえのないふるさとのために
19	第19代理事長 山久瀬正樹 先輩	明日のために ー勇気ある提言、果敢な行動
20	第20代理事長 小西　佐助 先輩	示せJaycee若さの資質 総意で築け郷土の未来
21	第21代理事長 内藤　守 先輩	高めよう自立と連帯 踏み出そう新しい一歩を
22	第22代理事長 松崎　健二 先輩	挑戦しよう意識の改革に みきわめよう地域の礎を
23	第23代理事長 山下　裕國 先輩	高めよう連帯と行動力 築こう活力ある故郷を！
24	第24代理事長 荒木文之助 先輩	見て聞いて考えて、さあ翔べ松江JC
25	第25代理事長 田中竹次郎(征二郎) 先輩	この時を君がやらねば誰がやる 果敢な行動連帯感
26	第26代理事長 安井　昭雄 先輩	自らに問いかけ共に築こう活力ある松江
27	第27代理事長 山下　武之 先輩	次なる時代へ ー勇気ある提言、価値ある行動
28	第28代理事長 中澤　強 先輩	"和" ー築こう集い　拡げよう豊かな心を
29	第29代理事長 泉　謙吉 先輩	熱意と行動で築こう まちのハーモニー
30	第30代理事長 竹下　三郎 先輩	考えよう信頼と責任 創ろう新時代への架け橋
31	第31代理事長 櫻井　誠己 先輩	興せ　地域の波　こぎ出そう 新たな時代の出発（たびだち）へ！
32	第32代理事長 伊原　正人 先輩	考えよう　人、街、歴史 調和のとれた　未来社会のために
33	第33代理事長 西村　康 先輩	エンジョイ　JC　企業に　社会に！
34	第34代理事長 野々村健造 先輩	確かな行動　創ろうひとの心とまちの顔
35	第35代理事長 伊藤　整 先輩	時代はJC　自立した ひと・まち・こころで日本（くに）づくり
36	第36代理事長 安島　壮 先輩	「分限から創造へ」 拡げよう21世紀へのWA
37	第37代理事長 古志　勝俊 先輩	ありますか！　まちの危機意識 もってますか！　まちの誇りを
38	第38代理事長 佐藤　尚士 先輩	MOVE！　松江を愛する人のために
39	第39代理事長 昌子　一郎 先輩	元気よーく　育もう青年の夢を うたおう　松江の応援歌
40	第40代理事長 皆美　佳邦 先輩	今　変革のとき　決断と行動 つなげよう　時代と次代
41	第41代理事長 神田　幸信 先輩	"為せば成る！"　あふれる若さと情熱で
42	第42代理事長 竹田　宏一 先輩	第2の創立期　研こうJCスピリット 創ろう新和のくにづくり
43	第43代理事長 安達　亨 先輩	―Guts―　時代を感じて
44	第44代理事長 景山　直観 先輩	一生懸命 ～笑顔と思いやりあふれる共創社会をめざして！
45	第45代理事長 三谷　栄司 先輩	堂々と語ろう！　わたしたちの夢を とことん動こう！　未来の子供達のために
46	第46代理事長 仙田　利夫 先輩	Link Our Wishes 我々の力で夢をかなえよう
47	第47代理事長 杉原　有 先輩	SOUL魂　JCイズム継承 届け地域へのアグレッシブメッセージ
48	第48代理事長 山口　慎二 先輩	～このまち　きらきら～
49	第49代理事長 加納　孝通 先輩	先見 ～CHALLENGE FOR THE FUTURE!～
50	第50代理事長 後藤ヒロシ(裕志)先輩	感動　感動が、まちの『チカラ』
51	第51代理事長 尾﨑　俊也 先輩	情熱 ～Passion, Challenge and Change～
52	第52代理事長 太田　敦久 先輩	大好き　この松江（まち）　この人
53	第53代理事長 木村　純子 先輩	忘己利他 ～心の通い合うまちの創造を目指して～
54	第54代理事長 池淵　正浩 先輩	一致団結 ～このまちから必要とされるJCを目指して～
55	第55代理事長 金見　誠司 先輩	もう一歩前へ ～強く、そして確かに～
56	第56代理事長 坪倉　大吾 先輩	ONE　JC ～強い"熱（ねつ）"　をこのまちへ～
57	第57代理事長 紅花　昌秀 先輩	響　～心に響け郷土（ふるさと）への想い！ 地域に響け若者の躍動！
58	第58代理事長 天野　正道 先輩	万里一空 ～明日の松江（まち）に向かって歩む～
59	第59代理事長 田中　康博 先輩	息 ibuki 吹　若き情熱を胸に ～すべてはまちの笑顔のために～
60	第60代理事長 本庄　雅樹 先輩	誰がために ～大局的な視点を持ち地域に耳を傾ける～
61	第61代理事長 秋鹿　修 先輩	心・信・真 ～心のままに信じたことが真実になる～
62	第62代理事長 西村　圭介 先輩	真剣 ～このまちの為に、心揺さぶる真のJayceeとなれ～
63	第63代理事長 古藤　雅之 先輩	REACH FOR THE STARS ～可能性を信じ、そして自らを信じて～
64	第64代理事長 福島丈太郎 先輩	継続 ～千里の道も一歩から～
65	第65代理事長 持田　寿人 先輩	知行合一 ～まちの為に動き続ける～
66	第66代理事長 野々村健志 先輩	当事者意識 ～考えが変われば行動が変わる 行動が変われば松江が変わる～
67	第67代理事長 安島　篤志　君	結 ～次代のまちの礎となる～
68	第68代理事長 伊原　正浩 先輩	ADVANCE ～新時代に向けた一歩を進めよう～
69	第69代理事長 樋口　拓磨 先輩	Action for the future!!
70	第70代理事長 影山　瑛一　君	守 破 離
71	第71代理事長 落合　彰　君	一期一会 共に行こう！同じ志で！

5年間の歩み

2021 > 2022 > 2023 > 2024 > 2025

『共創と変革』の次代

～揺るぎない志で変化を捉え、地域とともに切り拓く～

2021年、創立65周年を迎えた松江青年会議所は、猛威を振るう新型コロナウイルス感染症の影響下においても立ち止まることなく、運動を展開いたしました。記念式典の動画配信やテレビプロデューサー菅賢治氏を招いたWeb記念講演などを実施し、Webや動画の特性を活かした新たな発信の形を確立させました。また、人口減少が進む島根町を舞台に「Sustainable Space in 島根町 JCI Matsue Open Innovation」を開催いたしました。廃校となった野波小学校でのワーケーションや市長とのパネルディスカッションを通じ、関係人口の創出に挑みました。本事業をきっかけに地元の若者によるまちおこし団体が発足するなど、地域に具体的な変化をもたらしました。さらに、水辺の利活用とSUP世界大会の誘致を見据え「Matsue SUPFes!」を初開催し、未来に向けた大きな一歩を踏み出しました。

2022年には、35年ぶりの松江開催となる「中国地区コンファレンス2022in松江」を中国地区協議会と連携して開催いたしました。ニューノーマルな大会を目指し、各地から集まったメンバーに松江の魅力を伝えるとともに、地域との繋がりを一層深める財産といたしました。また、松江水郷祭に合わせて変則的ながらも「松江だんだん」の事業を継続し、コロナ禍で機会を奪われていた高校3年生を有料観覧席へ招待するなど、人や地域を元気にする「まつり」の力を示しました。

コロナ関連規制が大幅に緩和された2023年は、会員拡大において14名の新入会者を迎え、減少傾向にあった組織の勢いを大きくプラスへと転じさせました。国際化の推進においては、2019年より交流を重ねてきたハノイ青年会議所（ベトナム）との事業を再開し、相互の信頼関係を再構築いたしました。また、4年ぶりとなるフルスペックでの「松江だんだん」を「くにびきメッセ」での室内開催という新たな挑戦として実施し、多くの賑わいを創出いたしました。

2024年は、市民目線の地域活性化と関係人口の増強に向けた多角的な事業を展開いたしました。興雲閣での「Discover Matsue」による松江城周辺の魅力再発見と市長への政策提言をはじめ、野波海浜公園での「野波MIZUASOBIフェス」（約1,800名動員）、岸公園での「水辺のあそビバ!!」（約700名動員）、冬のカラコロ広場周辺での「堀川バルーンイルミネーション」（約1,100名動員）など、時期や場所を問わない水辺の利活用事業を精力的に実施いたしました。さらに、定時総会において一般社団法人への移行方針を承認し、組織基盤の将来的な強化へ向けた舵を切りました。

松江JCビジョン・ミッションならびに中期計画の最終年度となった2025年は、松江市長選挙に合わせ、次世代の有権者となる高校生による政策立案と模擬選挙事業を実施し、若い世代の主体的参画と郷土愛を育みました。「松江だんだん」では「市民のための、市民の手による、市民が主役のまつり」という原点に立ち返った事業を展開いたしました。さらに、千鳥南公園の改修後初となる国際交流事業やNHK連続テレビ小説「ばけばけ」の放送を見据えた水燈路関連事業など、地域の文化的価値を高める運動を展開いたしました。5年間の検証を経て新たなビジョン・ミッションを策定し、多様な試みを通じて未来への礎を築いた本期間は、創立70周年という大きな節目に向けた確かな架け橋となりました。



2021

第 66 代理事長

野々村 健志 先輩

昭和 56 年 12 月 18 日生まれ
トヨタカローラ島根（株）
代表取締役社長

日本 JC スローガン

Idea&Action 光を放つ起点となろう！

松江 JC スローガン

当事者意識　～考えが変われば行動が変わる行動が変われば松江が変わる～

正会員数　36 名

役員

直前理事長：持田寿人
副 理 事 長：岩﨑春樹　樋口拓磨　影山瑛一　安島篤志
専 務 理 事：伊原正浩
理　　事：落合　彰　福島丈太郎　錦織　譲　森木　慎　佐藤友馬
　　林　法正　長谷川将之　中村友樹
監　　事：内部高志　小林正康　古藤雅之

コロナウイルスの発生から2年目にあたる2021年は、ワクチンの登場によりコロナが収束すると期待されていましたが、ウィルスが変異を遂げる事により、引き続き社会に大きな影響を与え続けました。このようにコロナが収束する事はありませんでしたが、昨年延期された東京オリンピック2020が開催され、日本勢は過去最多のメダルを獲得しました。また、海外ではメジャーリーガーの大谷翔平選手が投手・打者の二刀流として歴史的な活躍を見せMVPを獲得しました。コロナと共に社会活動を行う、ウィズコロナが本格的に進み始めた年となりました。

私たち松江青年会議所は、「当事者意識」～考えが変われば行動が変わる行動が変われば松江が変わる～のスローガンの下で、日に日に変わる状況の中、その時々で最善と思われる選択を行い、運動を展開して参りました。コロナ対策を行いながら実施出来た事業もあれば、当初計画より形を変えざるを得なかった事業もありました。ウィズコロナの中、どうすれば自分たちが考えた事業を実現出来るのか、常に頭を悩ませてきた1年となりました。そして、その結果生まれた事業や新たな手法により、この地域に対して大きなインパクトを与える事が出来たと実感しております。

1. 創立65周年を迎え

どのような形で65周年に関わる事業を行うか、年当初より様々な事を想定して参りました。多くの方々に対して感謝の気持ちを伝えたいという想いがあったので、従来のような現地開催を想定して準備を進めました。結果的にはコロナの影響により、記念講演はWeb開催、そして記念式典は動画配信という形にそれぞれ変更となりました。記念講演ではテレビプロデューサーの菅賢治氏により、まちづくりに関わる講演を行い、多くの参加者に対してインパクトを与える事が出来ました。式典の配信においては、年末に差し掛かるタイミングでの配信にはなりましたが、これまでの歴史を振り返り、感謝を示す事が出来た式典となりました。「現地ではないから質が落ちた」と言われないように、心がけて準備を進めてきました。その結果、Webや動画の良さを活かした物になり、例年とは異なる形ではありますが、節目の年をしっかりと記念する事が出来たと感じております。

2. 松江の人口問題解決に向けて

松江が抱える人口問題に対し、"関係人口"という切り口で初めて臨みました。魅力的な環境資源があるにも関わらず、人口減少が進んでいる島根町を舞台に事業構築を行いました。事業の直前で緊急事態宣言が発令され、参加者集めには苦労しましたが、県外企業から8名の方に参加いただき、廃校となった野波小学校でキャンピングオフィスという形でのワーケーションを行いました。島根町の魅力を存分に体感いただいたうえで、「このまちで何が出来るか」をテーマに、グループワーク、発表を行い、島根町の可能性について参加者全員で考えました。また、上定市長にも参加いただき、パネルディスカッションを行いました。8名の方をお招きする事が出来ました。

この事業に刺激を受け、「地元の力で自分たちのまちを改善していこう」という想いを持った、島根町の若者達がまちおこし団体を設立し、活動を開始する事になりました。65周年の記念事業として行った、我々の事業を通して考えが変わり、行動に繋がった素晴らしい事例であったと考えております。

3. 松江のまちを彩るまつりを目指し

2020年に引き続き、2021年の水郷祭・松江だんだんも中止となりました。まつりを開催する事は出来ませんでした。だんだんが開催されなくても、少年野球だけでもなんとか開催出来ないか。熟考の結果、自分たちで協賛金を集めるという初の手法に挑戦しました。コロナウイルスの影響で最終的には中止になりましたが、非常に良いチャレンジとなりました。

また、松江青年会議所が以前から提唱している水辺の利活用、そしてSUP世界大会誘致という目標の下、宍道湖で「Matsue SUPFes!」を開催する事が出来ました。SUPを中心とした、初めての本格的なイベントでしたが、コロナ禍にも関わらず、非常に多くの一般参加者にSUPの魅力を感じていただくことが出来ました。また、事業の中ではレースも行いました。

今回の事業を行った結果、世界大会の開催に向けて、多くの問題がある事が浮き彫りとなりました。しかしながら、世界大会の誘致に向けた具体的な一歩が踏み出せたことは、私たちにとって非常に大きな成果です。SUPの世界大会誘致の実現に向け、今後も歩んでいければと思います。

4. 会員拡大の推進と会員の資質向上

コロナ禍であり、定期的な交流会を開催する事が難しい状況ではありましたが、10名の新入会員の獲得に成功しました。一方で4名の退会者も発生しました。2021年、2022年と卒業生が多い中、改めて一人がひとりを意識した拡大活動が必要です。

LDについては、VMVについて候補者と共に学びました。JCだけでなく、会社でも使える考えを学べた事は非常に良い機会になりました。会員も入れ替わる中、定期的にこういった学びの場が必要だと改めて感じました。

JCが何をやっているかを示す機会として、市長選挙の政策発表会の企画運営を行いました。コロナ禍という事もあり、初の試みとして無観客での開催、そしてWebとTVでの配信という形を取りました。Webでは好きな時に見られる事、TVでは何度も再放送いただいた事により、非常に多くの方に視聴いただく事が出来ました。これらの事により、多くの方にJCの存在を知っていただいただけでなく、投票率の低かった20-30代を中心とした、全体の投票率改善にも繋がった事業となりました。

5. 公益社団法人として

松江青年会議所が公益化してから7年が経過し、過去の経緯を知らないメンバーも増えてきました。再度、理解を促進するために、なぜ松江青年会議所は公益化したのか、そして公益社団法人、一般社団法人のそれぞれがどのような特徴を持っているのか、当時、公益化に向けてご尽力いただいた先輩や、公益から一般に変更した鳥取青年会議所の方のお話をお聞きし、今後の青年会議所運動の方向性についてメンバー同士で考える機会となりました。

6. 魅力あふれる広報

本年はLINEを追加し、青年会議所運動の発信を行いました。LINEの活用については課題が山積していますが、新たな可能性を踏み出せたと思います。

また、2021年度は多くの事業で、YouTubeを利用した発信を行いました。関係人口創出事業は、公開1か月で視聴回数が7000回を超えました。市長選の政策発表会については、長時間の動画にも関わらず、マーブルテレビ様の公式チャンネルと合わせると、4000回以上の視聴回数がありました。（現在、削除済み）無償で利用が可能なメディアを有効活用する事で、多くの人に情報発信する事が出来た1年となりました。

7. 世界との友情

本年もコロナウイルスの影響により、対面での国際交流が非常に難しい年でした。友好関係にあるJCI HanoiとはSNS上のやり取りのみに終わりました。2022年はASPACが日本で開催されます。このような対面での貴重な機会を有効活用できる日が早期に訪れる事を祈ります。

8. 出向者・充職の支援

今年度も多くのメンバーが出向先や充職で活躍していただきました。LOMとは違う活動をする事は、多くの学びを得る事につながります。自分の成長はひいてはLOMの成長にもつながります。ぜひ、この機会で学んだ知見をLOMに落とし込んでいただければと思います。また、機会があれば、出向や充職に対して積極的に参加いただければと思います。

主な活動一覧

例会事業	事業名	開催日	担当委員会
1月度例会 【対内事業】	1月度例会(賀会例会) Start ～想いを一つに動き出す～	1月21日	65周年実行特別委員会
2月度委員会事業 【対内事業】	2月度委員会事業 Inherit ～想いを受け継ぐ～	2月 2日	65周年実行特別委員会
2月度例会 【対内事業】	2月度例会第182回定時総会	2月18日	総務広報委員会
3月度例会 【対内事業】	3月度例会 持続可能な地域に向けて～遊ぶ・学ぶ・守る～	3月27日	InnovateMatsue委員会
4月度例会 【対内・対外事業】	4月度例会 WEB政策発表会2021 ～考えよう、私たちの未来を～	4月 6日	会員拡大研修委員会
5月度例会 【対内・対外事業】	5月度例会 SUP関連事業～ MatsueSUPFes ！～ SUP世界大会誘致を目指して	5月20日 5月23日	松江だんだん委員会
6月度例会 【対内事業】	6月度例会 Advance ～最高のおもてなしを目指して～	6月21日	65周年実行特別委員会
6月度委員会事業 【対内事業】	6月度委員会事業 選択～今後の組織を考えよう～	6月29日	総務広報委員会
7月度例会 【対内・対外事業】	公益社団法人松江青年会議所創立65周年記念事業 2021 JCI Matsue presents Sustainable Space in 島根町 JCI Matsue Open Innovation ～このまちで何ができるか～	7月24日 7月25日	InnovateMatsue委員会
8月度第一例会 【対内・対外事業】	8月度第一例会会員拡大企画 ビジネス講演会＆懇親会～ JCを知り、成長への一歩に～	8月 7日	会員拡大研修委員会
8月度第二例会 【対内事業】	8月度第二例会第183回定時総会	8月19日	総務広報委員会
9月度例会 【対内事業】	9月度例会松江だんだん 宍道湖水辺教室新型コロナウイルスの影響により中止	9月20日	松江だんだん委員会
創立65周年記念事業 【対内・対外事業】	創立65周年記念講演（WEB開催） Next creative positive change ～受け継ぐ想いを更なる高みへ～	10月16日	65周年実行特別委員会
10月度例会 【対内事業】	10月度例会創立65周年記念式典（動画配信） Next creative positive change ～受け継ぐ想いを更なる高みへ～	11月14日	65周年実行特別委員会
11月度例会 【対内事業】	11月度例会2021年度（公社）松江青年会議所卒業式典 ～前進～僕の後ろに道は出来る	11月27日	松江だんだん委員会
12月度例会 【対内事業】	12月度例会第184回定時総会・渡鍵式	12月 9日	総務広報委員会



創立65周年記念事業



創立65周年記念式典



2022

第 67 代理事長

安島　篤志　君

昭和 61 年 10 月 2 日生まれ
安島工業株式会社

日本 JC スローガン

愛が、希望に変えていく。

松江 JC スローガン

結　～次代のまちの礎となる～

正会員数　29 名

役員

直前理事長：野々村健志
副 理 事 長：岩﨑春樹　影山瑛一　中村友樹
専 務 理 事：落合　彰
理　　事：栗原大地　長谷川将之　樋口拓磨　伊原正浩　林　法正
　　乙部宏隆　西本卓史
監　　事：持田寿人　石倉英弥

オミクロン株感染拡大から幕を開け、コロナウイルスに翻弄される日々は2022年も続きました。世界ではロシアによるウクライナ侵攻、北朝鮮による頻発する弾道ミサイル発射、国内では安倍元総理銃撃事件など、世界平和や身近な安全までも脅かされる事態が起こりました。

スポーツ界では、大谷翔平選手がメジャーリーグで多くの記録を塗り替え、プロ野球では「村神様」こと村上宗隆選手が三冠王、佐々木朗希選手が完全試合を共に史上最年少で達成するなど、若い世代の活躍が多く見られました。そして、サッカー日本代表はワールドカップでベスト16に進出し、強豪国を破る快進撃は大きな感動を呼びました。

今年の漢字「戦」の通り、激動の1年間でありましたが、松江青年会議所においては、「結～次代のまちの礎となる～」のスローガンのもと、人と人との繋がりの大切さを忘れずメンバー一丸となって運動を展開し、より良い地域創造の為の更なる一歩が踏み出せたと感じております。

1. 中国地区コンファレンス2022 in松江

35年ぶりの松江開催、またコロナ禍での開催となりましたが、地域益、LOM益も考慮した誰もが楽しめるニューノーマルな大会を目指し、中国地区協議会と連携して「中国地区コンファレンス2022 in松江」を開催しました。中国地方各地から来られたメンバーに対し、松江の魅力を感じてもらうと共に、地元で活躍するプレーヤーとの繋がりを通じて、まちづくりについてより考える機会とすることが出来ました。多くの企業や関係者の皆様、応援していただいた特別会員の皆様のお力添えのお陰で、無事終えることが出来、事業を通して得た経験は、メンバーとしても松江青年会議所としても大きな財産となりました。今回の縁がきっかけで、松江青年会議所に関心を寄せてくれた方々がいたことは、地域の共感を得られるような事業が出来た証でもあります。この繋がりを密にしていくことで、今後もより地域に密着した組織として浸透していくものと信じております。

2. このまちの笑顔のために

大規模イベントに対する感染防止対策を網羅出来ず、特設ステージの設置をはじめとした従来の松江だんだんの開催は実現出来ませんでした。しかしながら、松江商工会議所田部会頭をはじめ、関係者の皆様からご厚情を賜り、水辺を活かしたまつり、コロナ禍となって一度も水郷祭を体感出来ていない高校3年生を有料観覧席へ招待するなど、変則的ながらも地域の発展の為の事業を開催させていただきました。

コロナ禍の閉塞感からの脱却も相まって、松江水郷祭とともに多くの来場者があり、改めてまつりには人や地域を元気にしてくれる力があると感じると共に、2023年へ繋がる年にすることが出来たと考えます。

3. 会員拡大の推進と魅力ある人財育成

本年度の会員拡大は、8名の卒業生を送り出すこともあり、今後の組織を左右するほど重要なものでありました。若干名の退会者はあったものの、メンバーの皆様、特別会員の皆様からご支援ご協力を賜り、一次で4名、二次で3名、三次で6名の方が正会員として加入されました。そして2023年度の一次では5名と、近年では多い数字とすることが出来ました。

会員拡大運動を行っていく中で、松江を代表するリーダーをお招きし、講演会並びに交流会を開催しました。参加者にとって多くの学びを得る機会となったと共に、このまちの魅力や将来を考え行動する人財へと近づくことが出来たと考えます。

4. 継続していく為に

コロナ禍や時代の移り変わりによって、たわいもない会話から事業のヒントやアイデアを得る機会も減少し、JC運動も大きな影響を受けています。そうした状況の中で、今後もより積極的に運動を展開出来るよう、メンバー同士の絆、友情を強化する例会を開催し、関係性の向上へと繋げることが出来ました。

一方で、多様化していく社会の中で、組織運営のアップデートは未遂となりました。出欠回答、情報共有1つを見ても、現状より利便性が良く、コミュニケーションが活発になるやり方は多く転がっていると感じます。良い部分は引き継ぎながらも、将来の地域を担う若い世代にも受け入れられるよう、そして社業にも持ち帰ることの出来るよう、会員の資質向上と持続的な組織運営については今後も検討すべきだと考えます。

5. 魅力溢れる広報

2022年度はこれまで継続的に実施しているホームページ、各SNSでの発信の中で、動画配信を加え、感覚的により伝わるような形を取りました。外部の方へ効果的に伝えられるような発信、広報については引き続き課題を残してしまいましたが、関係諸団体と協力してPR、告知を出来たことは今後にも活かせるものだと考えます。2023年度の広報が素晴らしいものとなるよう祈念しております。

6. 世界との友情

近年交流のあるJCIハノイの皆様とは、WEBを通じてではありましたが、年初の意見交換会、水燈路関連事業を通して引き続き親交を深めてまいりました。国際的な運動もJCの魅力の1つであることを感じることに加え、今後の運動の機運を高めることが出来ました。

7. 出向者・充職者の支援

2022年度も多くの方に出向をしていただきましたが、中国地区コンファレンスの開催にあたり、中国地区協議会出向者を中心に、LOMでは得られない知見、経験を持ち帰っていただきました。実地またはWEBを併用した開催方法が引き続き行われたことで、事業でも多くの学びを得る機会となりました。

今後も多方面からお声掛けいただき組織力を向上させていく為、出向者の皆様により一層活躍していただく為にも、LOMとして支援体制を常に見直していくことも必要だと考えます。

主な活動一覧

例会事業	事業名	開催日	担当委員会
1月度例会 【対内事業】	1月度例会(賀会例会) 起～新たな始まり～	1月18日	地区コンファレンス運営委員会
2月度例会 【対内事業】	2月度例会第185回定時総会	2月17日	総務広報委員会
3月度例会 【対内事業】	3月度例会 "結"集～総力を結集し、次代を担う会員拡大20名を実現する～	3月17日	人財発掘育成委員会
4月度例会 【対内事業】	4月度例会 想いがつながる、糸るー吉（ゆるーい）話	4月20日	総務広報委員会
5月度例会 【対外事業】	5月度例会 第2回Matsue SUP Fes! ～松江の水辺で遊ぼう！感じよう！～	5月19日 5月22日	松江だんだん委員会
6月度例会 【対外事業】	6月度例会 MachiCRAFT in MATSUE 2022	6月19日	地区コンファレンス運営委員会
7月度例会 【対外事業】	7月度例会 ～松江の将来の発展のために～	7月21日 7月25日	人財発掘育成委員会
松江だんだん 少年野球大会	松江だんだん少年野球大会 次世代に繋ぐ、友情のウイニングショット～今日の主役は君だ～	7月12日 9月17日 9月25日	総務広報委員会
8月度第一例会8/6 【対外事業】	8月度第一例会松江だんだん ビジネス講演会＆懇親会～ JCを知り、成長への一歩に～	8月　7日	松江だんだん委員会
8月度第一例会8/7 【対外事業】	8月度第一例会松江だんだん 君にみせたい花火(なつ)がある	8月　7日	松江だんだん委員会
8月度第二例会 【対内事業】	8月度第二例会第186回定時総会	8月18日	総務広報委員会
9月度例会 【対外事業】	9月度例会 このまちの未来に向けた創造	9月12日 10月　5日	人財発掘育成委員会
10月度例会 【対内事業】	10月度例会JCデー 紡（つむぐ）	10月　1日	地区コンファレンス運営委員会
10月度委員会事業 【対外事業】	水燈路関連事業 Rescue the Bottle in 水燈路	10月16日	松江だんだん委員会
11月度例会 【対内事業】	11月度例会卒業式典 結情～終わりなき友情～	11月19日	松江だんだん委員会
11月度例会 【対内事業】	11月度例会卒業式祝賀会 旅～終わりと始まり～	11月19日	地区コンファレンス運営委員会
12月度例会 【対内事業】	12月度例会第187回定時総会・渡鍵式	12月　8日	総務広報委員会



中国地区コンファレンス2022 in松江



MachiCRAFT in MATSUE 2022



2023

第 68 代理事長

伊原 正浩 先輩

昭和 59 年 5 月 25 日生まれ
日新化成株式会社
代表取締役社長

日本 JC スローガン

Drive our dreams　日本の魅力で世界を席巻しよう

松江 JC スローガン

ADVANCE　～新時代に向けた一歩を進めよう～

正会員数 32 名

役員

直前理事長：安島篤志
副 理 事 長：長谷川将之　樋口拓磨　落合　彰
専 務 理 事：栗原大地
理　　事：西本卓史　浜松大揮　森木　慎　影山瑛一　日野翔太
　　宮澤真衣　宮田佳祐
監　　事：古藤雅之　野々村健志

2022年から続くロシアのウクライナ侵攻に加え、イスラエルによるパレスチナガザ地区への軍事侵攻もはじまり、アジアに目を向けても北朝鮮による継続的なミサイル実験、中国による台湾有事懸念の増加など世界情勢は不安定な方向に動いた1年でした。一方で、2020年から続く新型コロナウイルスは5月に分類変更となり、多くの規制も解除され、国内はようやくアフターコロナに向けて動き出しました。加えて、3月のワールドベースボールクラシックでの日本の優勝、バスケットのワールドカップでは男子日本代表の活躍による2024年のパリオリンピック出場権の獲得、大谷翔平選手の2度目のMVP獲得など、明るいニュースも多かったと思います。

そのような中、私たち、松江青年会議所は「ADVANCE ～新時代に向けた一歩を進めよう～」をスローガンにアフターコロナという時代に向けて様々な取組みを前に進めていくことの出来た1年になりました。

1. 会員拡大の推進とリーダーシップの育成

2023年度は卒業生3名、次年度の2024年度は卒業生2名の予定となり、多くの卒業生を送り出した近年と比べて卒業人数が少なくなることから、ようやく会員数をプラスに転ずる機会となりました。2023年度は多くの方からのご協力もあり、第一次入会4名、第二次入会5名、第三次入会5名と計14名の入会者を迎えることが出来ました。目標として掲げていた100名LOMには遠く及ばない数字ではありますが、減少傾向にあった会員数に歯止めをかけ、大幅にプラスに転じることが出来たことから、今後の会員拡大に向けて弾みをつける一年になったと考えております。

また、近年は多くの卒業生を送り出したことからJC歴の浅いメンバーが多くなりました。そのような中、近年出来ていなかった特別会員の皆様との交流会や講師を招いた講演などを積極的に行い、リーダーシップについて改めて考える場を創出することが出来ました。

2. 国際化の推進

5月に新型コロナウイルス関連の規制も大幅に緩和され、数年ぶりに海外との行き来も従来通りに行えるようになりました。加えて円安の効果もあり、インバウンドで多くの外国人が日本を訪れる一年となりました。

そうした中、今年度は2019年に交流をスタートさせたハノイ青年会議所との事業を数年ぶりに行い、改めて関係性を再構築することが出来た一年となりました。一方で、行き違いなど想定外のこともあり、国際交流の難しさを肌で感じる場面も多かったと思います。水燈路関連事業においても松江市の在住外国人を多数招いての事業を行い、来場者と外国人の交流による異文化への理解促進の場を創出することで、世界と松江を近づけることが出来たと感じております。

3. 地域の賑わいの創出

4年ぶりのフルスペックでの水郷祭の開催に合わせ、従来規模の松江だんだんを実施することが出来ました。近年の夏場の日中の環境を考慮し、くにびきメッセでの室内開催という新たなチャレンジをしましたが、多くの来場者にも恵まれ、今後のまつりに向けた大きな可能性を示すことが出来ました。松江だんだん内のイベントも地域に根付いたものを多く実施し、それぞれで多くの賑わいを見せることとなり、来場者に松江の魅力を改めて感じて頂くことが出来ました。

また、3年目となるSUP Fesでは、野波海水浴場での開催とし、松江市内の来場者に加え、県外からも多くの方にお越し頂きました。松江の豊かな自然を感じてもらうことで、関係人口の創出にも寄与する事業となりました。

4. ブランド力向上に繋がる情報発信

近年SNSを利用して様々な手法で行っている広報活動ですが、効果的な情報発信について、講師を招いた勉強会で考える場を作りました。よりスピーディに、より多くの情報を発信するために各委員会へSNS投稿の権限移譲を行った結果、例年よりも多くの投稿をすることが出来るようになりました。一方で、ブランド力は一朝一夕に確立出来るものではないため、今後も継続した広報を行っていくことで、松江青年会議所のブランド力をより高めて頂きたいと思います。

5. 出向者・充職者への支援

2023年度は8年ぶりの島根ブロック協議会会長輩出をはじめ島根ブロックを中心に多くのメンバーに出向をして頂きました。多くのメンバーに島根ブロック協議会の運動に興味をもってもらい、関わってもらうことが出来たと考えております。また、出向者には出向先でのLOMでは得られない知見や経験を持ち帰って頂きました。今後、この機会で学んだ知見をLOMに落とし込んで頂きたいと思います。そして、今後もより多くの方に出向や充職への積極的なご参加をお願いしたいと思います。

主な活動一覧

例会事業	事業名	開催日	担当委員会
1月度例会 【対内事業】	1月度例会(賀会例会) Road to New World	1月17日	Globalize Matsue委員会
2月度例会 【対内事業】	2月度例会 第188回定時総会	2月16日	総務・ブランディング委員会
3月度例会 【対外事業】	3月度例会 温故創新～未来への挑戦～	3月16日 3月18日	会員拡大・研修委員会
4月度例会 【対内事業】	4月度例会 松江青年会議所を成長させるブランディング戦略	4月20日	総務・ブランディング委員会
5月度例会 【対外事業】	5月度例会 shin-sui 新水・進水・親水	5月27日 5月28日	松江だんだん委員会
6月度例会 【対外事業】	6月度例会 TSUNAGU ～ create an opportunity ～	6月24日	Globalize Matsue委員会
7月度例会 【対外事業】	7月度例会 ～新たな創造のために～	7月14日 7月25日 8月 8日 8月18日 8月29日	会員拡大・研修委員会
松江だんだん 少年野球大会	日立旗争奪第16回松江だんだん少年野球大会 TRY TRY ～まずは、1歩踏み出してみよう～	7月 6日 7月29日 7月30日 8月 5日	総務・ブランディング委員会
8月度第一例会 【対外事業】	8月度第一例会 松江水郷祭 湖と緑のフェスタ 松江だんだん2023 帰ってきた!松江だんだん!!～夏一番燃えて輝く場所がある～	8月 4日 8月 5日 8月 6日 8月 7日	松江だんだん委員会
8月度第二例会 【対内事業】	8月度第二例会 第189回定時総会	8月17日	総務・ブランディング委員会
9月度例会 【対外事業】	9月度例会 TSUNAGU ～松江水燈路de国際交流しよう～	9月14日 9月15日	Globalize Matsue委員会
10月度例会 【対内事業】	10月度例会 JCデー 繋（つなぐ）	10月 1日	会員拡大・研修委員会
11月度例会 【対内事業】	11月度例会 卒業式典 そして、これから	11月23日	松江だんだん委員会
11月度例会 【対内事業】	11月度例会 卒業式祝賀会 The story begins here. ～主役はあなた～	11月23日	Globalize Matsue委員会
12月度例会 【対内事業】	12月度例会 第190回定時総会・渡鍵式	12月 7日	総務・ブランディング委員会



松江水郷祭 湖と緑のフェスタ 松江だんだん2023
帰ってきた！松江だんだん！！～夏一番燃えて輝く場所がある～



TSUNAGU ～松江水燈路de国際交流しよう～



2024

第 69 代理事長

樋口 拓磨 先輩

昭和 60 年 12 月 4 日生まれ
株式会社樋口敦郎商店

日本 JC スローガン

Be the Leader　未来の笑顔のために

松江 JC スローガン

Action for the future!!

正会員数　40 名

役員

直前理事長：伊原正浩
副 理 事 長：長谷川将之　中村友樹　宮田佳祐　栗原大地
専 務 理 事：影山瑛一
理　　事：日野翔太　三河勇気　浜松大揮　川端陽介　宮澤真衣、
　　小澤一竜　落合　彰　森木　慎　西本卓史
監　　事：本庄雅樹　内部高志　安島篤志

2024年1月1日午後に、石川県能登地方を震源とする地震が発生し、同県輪島市と志賀町で震度7を観測致しました。石川、富山、新潟、山形各県など広い範囲に津波が到達して、400人もの死者を出しました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。また、岸田文雄首相の後継を選ぶ自民党総裁選があり、石破茂氏が第28代総裁に選出されるとともに臨時国会で首相に指名され、新内閣を発足させました。

年当初より自然災害による猛威があるとともに、日本の政治の激動を目の当たりにする一年だったと思います。

そして、2024年の松江青年会議所は「Action for the future!!」をスローガンに掲げて、未来に向けた運動を展開して参りました。

1. 更なる大きな輪と指導力の育成

2024年度は会員拡大専用の委員会は設けずに、会員拡大運動を各委員会の職務分掌に設けて運動を展開致しました。2月に開催したスポーツマンシップJCフェスタ～ WINTER 2024 ～をはじめ、多くの事業に候補者をお招き致しましたが、今一歩のところで入会には繋がらず、2024年度の入会者は第一次の三名、一身上の都合による退会者一名という結果となりました。11月にはくにびきメッセで「地元pride」と称して賛助会員拡大の事業を開催致しました。賛助会員の拡大に目を向けた事業の構築は過去に例が無く、集客には苦戦したものの、賛助会員として今後ご支援していただける企業様と繋がりました。今後も、賛助会員の拡大に邁進していただけたらと思います。そして、会員拡大専用の委員会を設けなかった理由として、全ての委員会に当事者意識を持って未来に向けた会員拡大運動を展開していただきたいという考えがありましたが、結果として会員拡大に成功したとは言えず、私自身の皆様に対するリーダーシップが不足していたと受け止めており、深く反省しております。2024年度の候補者の情報を活用していただき、2025年度も会員拡大に邁進していただきたいと思います。

指導力の育成においては、1月に青年会議所の理念について澤田先輩に講演をしていただき、4月には宍道町を舞台としたサバイバルゲームと11月にはコンセンサスゲームを通してリーダーシップを学べる機会を創造致しました。青年会議所が何をするべき団体なのか、リーダーシップとは何かを学んでいただいたことは、今後の組織運営の礎になったと思います。2025年度でその学びを活かしていただくことを切に願っております。

2. 関係人口の増強と水辺の利活用

関係人口についてですが、3月には興雲閣にて松江城の魅力を発信する事で関心を持つ人を増やして関係人口の創出に繋げるための「Discover Matsue ～松江の魅力を掘り起こそう～」を開催致しました。松江城の周辺を歩いて第三者の目線で新たな魅力を探すとともに改善点について協議致しました。上定市長への提言により、堀川遊覧船が外国語での予約に対応する事となりました。続いて、7月には松江だんだんテラスにて海外の人と継続的な関係を構築する「Experience Matsue ～松江の魅力でコト消費～」を開催致しました。屋外開催で猛暑ということもあり集客に大苦戦致しましたが、一部の海外の方には海外メディアに取り上げていただいたりする等、一定の関係性が生まれました。そして、10月に開催した松江水燈路関連事業では多国籍ナイトマーケットと称して市民と外国人が継続的に交流する場を作り、多くの交流が見られました。

水辺の利活用事業として、5月に野波海浜公園にて多くのコンテンツを用意した野波MIZUASOBIフェスを開催したところ、約1800名の参加者がお越しになりました。また、9月には宍道湖の岸公園にて「水辺のあそビバ！！」を開催したところ、約700名の参加者がお越しになりました。5月と9月の二つの事業とも、多くの方に水辺の魅力を感じていただけたと思います。更に、12月にはカラコロ広場周辺にて堀川バルーンイルミネーションを開催して、約1,100名の参加者がお越しになりました。12月の対外事業は経験が無い中で大きな挑戦ではありましたが、多くの市民に水辺の魅力を堪能していただけたと思います。

3. 松江だんだん

松江だんだんは2023年度からくにびきメッセでの屋内開催になるなど、大きく変革致しました。2024年度は松江市総合体育館で開催することとなり新たな挑戦となりましたが、松江だんだんは市民のためのまつりであるという原点を大切にして市民の方に事業に携わっていただき、約4,800名の参加者にお越しいただきました。

また、第17回目となる日立旗争奪松江だんだん少年野球大会も開催して、試合を楽しむ子どもたちの姿が見られ、思い出となる大会となりました。

4. 公益社団法人として

6月に松江商工会館にメンバーで集まり、一般社団法人に移行する事でどう変化するのかを学ぶとともに、より良い組織運営に向けた法人格移行について足並みを揃える機会を創造致しました。その上で、第193回定時総会にて法人格移行について承認をいただきました。実際の移行手続きは2027年度から始まることにはなりますが、移行後においてより良い組織運営となることを切に願っております。

5. 出向者の支援

2024年度は公益社団法人日本青年会議所、中国地区協議会、島根ブロック協議会、6JC経済文化交流会と多くのメンバーに出向をしていただきました。特に、6JC経済文化交流会の会長という大役を長谷川将之君に担っていただき、事業も松江で開催されました。出向者の皆様には各出向先にてLOMでは得られない知見を学んでいただきましたので、今後、その経験を2025年度以降のLOMの運営に活かしていただければ嬉しく思います。

主な活動一覧

例会事業	事業名	開催日	担当委員会
1月度委員会事業	新年賀会 レッツチームビルディング	1月13日	水辺の利活用推進委員会
1月度例会 【対内事業】	1月度例会・担当例会 団結力　～共通の目的を持ち、同じ方向へ向かう～	1月18日	指導力開発委員会
2月度例会 【対外事業】	2月度例会・担当例会 第 191 回定時総会	2月10日 2月15日	松江だんだん委員会 総務・研修委員会
3月度例会 【対外事業】	3月度例会・担当例会 Discover Matsue ～松江の魅力を掘り起こそう～	3月23日 3月24日	関係人口増強委員会
4月度例会 【対外事業】	4月度例会・担当例会 結束　～絆を深め、共に行動する～	4月28日	指導力開発委員会
5月度例会 【対外事業】	5月度例会 ・担当例会 夏まで待てない！一足早い水遊び！	5月18日 5月19日	水辺の利活用推進委員会
6月度例会 【対外事業】	6月度例会・担当例会 変革の起点　一般社団法人移行に向けて	6月20日	総務・研修委員会
7月度例会 【対外事業】	7月度例会・担当例会 Experience Matsue ～松江の魅力でコト消費～	7月16日 7月27日	関係人口増強委員会
松江だんだん 少年野球大会	日立旗争奪第17回松江だんだん少年野球大会 心に残る瞬間 ～思い出の1ページ～	7月20日 7月21日 8月　3日	指導力開発委員会
8月度第一例会 【対外事業】	8月度第一例会 松江水郷祭 湖と緑のフェスタ 松江だんだん 2024	8月　3日 8月　4日	松江だんだん委員会
8月度第二例会 【対内事業】	8月度第二例会 第192回定時総会	8月22日	総務・研修委員会
9月度例会 【対外事業】	9月度例会・担当例会 まつえの水辺を、遊び場に。	9月23日	水辺の利活用推進委員会
10月度委員会事業	第68回JCデー 報恩感謝	10月　1日	総務・研修委員会
10月度例会 【対内事業】	10月度例会・担当例会 衆力功をなす	11月17日	指導力開発委員会
11月度委員会事業	卒業式式典 飛翔～旅立ち～	11月　9日	総務・研修委員会
11月度委員会事業	卒業式祝賀会 感謝　～成長し続けるあなたに～	11月　9日	水辺の利活用推進 委員会
11月度例会 【対外事業】	11月度例会・担当例会 地元pride	11月23日	松江だんだん委員会
12月度例会 【対外事業】	12月度例会・担当例会 お堀で楽しむキラキラナイト	12月　8日	水辺の利活用推進委員会
第193回定時総会・ 12月度委員会事業	第193回定時総会・渡鍵式・忘年会 一心同体～会員の理解を深めより良い活動を実行していこう～	12月21日	総務・研修委員会



まつえの水辺を、遊び場に。


Discover Matsue ～松江の魅力を掘り起こそう～



2025

第 70 代理事長

影山 瑛一 君

昭和 61 年 1 月 2 日生まれ
株式会社影山呉服松江店
代表取締役専務

日本 JC スローガン

Raise your Flag　理想への挑戦

松江 JC スローガン

守 破 離

正会員数　42 名

役員

直前理事長：樋口拓磨
副 理 事 長：三河勇気　中村友樹　川端陽介
専 務 理 事：宮澤真衣
理　　事：山田拓弥　浜松大揮　佐藤二規　宮田佳祐　栗原大地
　　日野翔太　西本卓史　小川宏基
監　　事：澤田健吾　伊原正浩　安島篤志

2025年度の最大のキーワードは、長年指摘されてきた2025年問題です。いわゆる団塊の世代がすべて75歳以上となり、医療・介護需要の急増、労働力人口の減少、社会保障費の増大といった課題が、想定ではなく現実の数字として各地域・各産業に重くのしかかる局面に入りました。人手不足はもはや一部業種の問題ではなく、地域経済全体の持続性を左右する共通課題となりました。こうした中で開催された大阪・関西万博は、単なるイベントではなく、人口減少社会における都市、産業、技術の在り方を国内外に示す機会となりました。また、全国各地で進む事業承継問題や地域産業の担い手不足は、2025年を境に一段と顕在化し、「先送りできない経済課題」として多くの地域で向き合う一年となりました。このように2025年は、日本経済にとって大きな事件が起きた年というよりも、これまで警鐘として語られてきた課題が、一斉に現実となった年でした。私たち青年世代にとっては、制度や環境の変化を待つのではなく、地域の経済と雇用をどう守り、どう次世代につなぐのかが、より具体的に問われ始めた一年だったと言えると思います。

そのような中、私たち、松江青年会議所は松江JCビジョン・松江JCミッション・中期計画の最終年度に「守破離」をスローガンに掲げ、伝統や継続すべきことをしっかりと守りながら時代にあわせて変えるべきところを変えて、地域に広げていく年にすることが出来たと感じております。

■リーダーシップの開発

地域のために能動的に行動できる市民として、リーダーシップを発揮できる人材を一人でも多く育成していけるようリーダーシップの開発となる事業と研修を行いました。

6月度例会では地域課題に向き合いながら、各委員会がアクションプランを立案しました。また9月度例会ではブラインドサッカーを通じて多様な立場や状況を理解し尊重する意識を育みました。いずれの例会も個々のメンバーが自らの役割を認識し、チーム内でリーダーシップを発揮することで、地域課題に取り組むために必要なリーダーシップと、主体性を持って行動する力をつけるきっかけになりました。

そして、研修では即戦力として青年会議所活動に参加していけるようボランティア活動を取り入れ、多くの研修生が自分たちで地域の為を考えて行動することで入会後もスムーズに組織運営に携わることができました。

■会員拡大運動の推進

本年は久しぶりに多くの卒業生を送る年となり、5名の方が卒業されました。それでも本年度は多くの方のご協力をいただき、第二次研修生5名、第三次研修生3名、次年度第一次研修生5名、さらに退会していた会員の復帰もあり、計14名の入会者を迎えることができました。結果として会員数を増やすことに成功しています。残念ながら中期計画で掲げていた会員数70名になるように当初目標としていた26名の会員拡大には遠く及びませんでしたが、例会や異業種交流会を通じて多くの方に声をかけることができ、今後の会員拡大につなげていけるきっかけを作ることができました。

また、リーダーズアイやSNSを用いてイメージ戦略を行い、会員拡大に繋がるような広報に力を入れました。そちらも併せて今後の会員拡大につながる一年になったと考えております。

■地域間交流による地域の発展

水の都と称される水辺や国際文化観光都市であることなどの松江市のもつ潜在能力を活かし、国際交流やパートナーシップの創出に繋がる公益事業を行ってきました。5月には通年事業となっている野波海水浴場でのSUP Fesを行い、関係者に対しての事業譲渡となるような動きも並行して行いました。7月度例会では第一部で他LOMでの国際関係事業の成功話を聞き、第二部では千鳥南公園周辺を用いて在住外国人と自然に交流できる場を提供しました。目標の三倍以上の集客に成功したこととこの場所で改修工事後最初の事業だったこともあり、今後の様々なきっかけとなりました。水燈路関連事業においても今まで利用していない場所を利用して「ばけばけ」の放送に合わせ松江の歴史・文化への関心を高める事業を行いました。いずれの事業も本当に多くの一般来場者の方に参加していただけました。

今後はこの経験を活かし、より地域間交流を深めて松江のまちの発展に寄与していきたいと考えます。

■市民のために

2025年は松江市長選が実施されました。4月度例会では、政治的に平等な立ち位置にある青年会議所のすべき運動として、これから有権者となる高校生が選挙を通じて市政や地域課題への関与を深めることを目的として、高校生にそれぞれチームを組んで政策を考えてもらい模擬選挙を行うことで政治に主体的に参加する意識を育みました。地域の未来を本気で考える若い市民の郷土愛育成となりました。8月度第一例会の松江だんだんでも市民に地域行事に参加する意識を高めて松江に対する郷土愛を育む事業を行いました。松江市内外の多くの人に参加していただき、松江だんだん本来の「市民のための、市民の手による、市民が主役のまつり」を守り、市民の心に残るまつりを開催することができました。

■時代に合わせた組織運営

5か年計画である、松江JCビジョン・松江JCミッション・松江JC中期計画の最終年度となる2025年度は、松江JCビジョン・ミッション並びに松江JC中期計画の検証を行い、今後どのように運動していくべきかを考え、新たな松江JCビジョン・松江JCミッション策定しました。その他、毎年行っている総会の開催形式や少年野球の開催形式など様々なところで新たな運営方法を模索して試験的な運用を行いました。今後の参考になるところを色々と出せたのではないかと考えています。

■出向者・充職者への支援

2025年度は日本青年会議所の内部会計監査人の副代表をはじめ大変多くの方に出向していただきました。各委員会それぞれに出向者支援となるよう協議会の事業や委員会の設営をお願いさせていただきました。なかなか出向者が普段どのような運動を行っているかは見えにくいところがありますが、LOMをおろそかにしているわけではなくLOMのことをしながら出向先で松江メンバーの一人として活躍をしています。そして出向者もそれぞれの知見や経験をしっかりと持ち帰っていただき、今後LOMに落とし込んでいただきたいと思います。今後もより多くの方に出向していただき、積極的に出向者支援を行っていただければと思います。

そして、本年は松江青年会議所として久しぶりにJCIアカデミー（旧国際アカデミー）のデリゲイツの輩出も行いました。今後より積極的にJCIや日本青年会議所の事業に参加して学びを地域に広めていただきたいと思っています。

■最後に

「守破離」というスローガンの下、一年間の運動を行ってきましたが、思い返してみると、松江青年会議所の歩んできた歴史の深さと伝統を守っていくことの難しさ、時代の変化の速さや未来を見抜くことの難しさ、松江青年会議所ならではの価値観の創出や地域に伝播していくことの難しさなど、たった3文字の「守破離」の言葉を体現するだけでも、メンバーの皆様には本当に多くの苦労と悩みがあったのではないかなと思います。私個人としても、理事長という役を預からせていただいたことで今まで経験することのなかった多くの経験をさせていただきました。本当に色々な事があり、未来のこと、このまちのことで、悩み続けながら色々なことを決めていくことがありましたが、その全てが自分1人ではできない事でした。それだけメンバーの皆様に色々な面でお世話になったということを実感しております。皆様のおかげで自分の人生にとってかけがえのない最高の一年になりました。ご指導・ご鞭撻いただいた多くの特別会員の皆様、そして一緒に支えていただいた現役メンバーの皆様、陰ながら応援して下さっている賛助会員の皆様、関係諸団体の皆様のおかげで、この一年間を乗り越えていくことが出来たものと心から感謝を申し上げます。1年間、本当にありがとうございました。

主な活動一覧

例会事業	事業名	開催日	担当委員会
1月度例会 【対内事業】	1月度例会・担当例会 新年の扉を開く～共に創る可能性～	1月18日	郷土愛育成委員会
2月度例会 【対内事業】	2月度例会・担当例会 第 194回定時総会	2月19日	総務委員会
3月度例会 【対外事業】	3月度例会・担当例会 ストライク！拡大意識の向上	3月20日	会員拡大・広報委員会
4月度例会 【対外事業】	4月度例会・担当例会 松江の未来を創る一票 高校生模擬選挙2025	4月 5日	郷土愛育成委員会
5月度例会 【対外事業】	5月度例会 ・担当例会 Welcome to ちかうみ！！	5月10日 5月11日	地域経済活性化委員会
6月度例会 【対内事業】	6月度例会・担当例会 私たちのアクションプラン小さな一歩が、地域を変える	6月18日	リーダーシップ育成委員会
7月度例会 【対外事業】	7月度例会・担当例会 笑顔つながる夏祭りひかりでつながる松江と未来	7月17日 8月16日	地域経済活性化委員会
松江だんだん 少年野球大会	日立旗争奪第18回松江だんだん少年野球大会 未来へのホームラン！～挑戦のその先へ～	7月12日 7月13日 8月 3日	総務委員会
8月度第一例会 【対外事業】	8月度第一例会 松江水郷祭 湖と緑のフェスタ 松江だんだん2025愛あふれるまち!松江だんだん	8月 2日 8月 3日	郷土愛育成委員会
8月度第二例会 【対内事業】	8月度第二例会 第195回定時総会	8月21日	総務委員会
9月度例会 【対内事業】	9月度例会・担当例会 見えないチカラ、見える一歩。伝える・動く・繋がる 『リーダーシップ』	9月23日	リーダーシップ育成委員会
10月度例会 【対内事業】	10月度例会・担当例会 第69回JCデー	10月 1日	会員拡大・広報委員会
水燈路関連事業	繋がる伝統、拓く未来 月夜の化けまつりばけばけ広めていかNIGHT!	10月 5日	地域経済活性化委員会
11月度例会 【対内事業】	11月度例会・担当例会 卒業式式典感謝～ありがとうを胸に未来へ～	11月29日	総務委員会
11月度例会 【対内事業】	卒業式祝賀会 ありがとうと 伝えたくて あなたに	11月29日	リーダーシップ育成委員会
12月度例会 【対内事業】	12月度例会・担当例会 第196回定時総会・渡鍵式	12月18日	総務委員会



松江の未来を創る一票 高校生模擬選挙2025



第69回JCデー

70th ANNIVERSARY
共振 MATSUE JC

紡ぐ想い、繋ぐ次代。
共に行こう、
想い描いたその先へ。

記念事業

MATSUE Re:Design Project
ー高校生が創る理想のまちー

と　き：2026 年 9 月 13 日 (日)
ところ：くにびきメッセ（大展示場）

記念式典・祝賀会

と　き：2026 年 10 月 17 日 (土)
ところ：ホテルー畑（平安の間）

記念講演

と　き：2026 年 10 月 24 日 (土)
ところ：松江テルサ（テルサホール）

MATSUE Re:Design Project

ー高校生が創る理想のまちー

2026年9月13日（日）　くにびきメッセ 大展示場

本年、松江青年会議所は創立70周年記念事業として、9月13日にくにびきメッセにて「MATSUE Re:Design Project ー高校生が創る理想のまちー」を開催いたしました。

本事業は、次代を担う高校生が「10年後帰ってきたいと思えるまち」をテーマに、松江の魅力や課題を見つめ直し、自ら考えた理想のまちを形にして地域社会へ発信することを目的に実施しました。

開催に先立ち、松江市内6校から21名の高校生が参加し、7月に全3回のワークショップを実施しました。松江の「GOOD（魅力）」と「MOTTO（課題）」を出し合い、地元企業や関係団体との協働を通じて、アイデアを来場者が体験できる企画へと発展させました。

当日は、地元企業と高校生が協働した飲食ブース、松江の文化に触れる体験ブース、参加型フォトスポット、ARスポーツ「HADO」などを展開しました。また、松江未来ビジョンでは、理想の松江駅などを模型やMinecraftで表現し、高校生の視点から未来の松江を提案しました。ステージでは地元高校生によるチアリーディングやマーチングバンドの演奏も披露されました。

当日は約2,500名の方々にご来場いただき、高校生が考えた企画を多くの皆様に体験していただきました。高校生が自ら考え、地域の大人と協力し、思い描いた未来を発信する機会となったことは、本事業の大きな成果です。

今後も松江青年会議所は、若い世代の挑戦を後押しし、地域の皆様とのつながりを深めながら、松江の明るい未来の創造に向けて運動を展開してまいります。













記念式典・祝賀会

2026年10月17日（土）　ホテル一畑 平安の間

記念式典

1. オープニングVTR
2. 開会宣言
3. 国歌斉唱
4. JCソング斉唱
5. JCIクリード唱和
6. JCIミッション並びに JCIビジョン唱和
7. JC宣言朗読並びに 綱領唱和
8. 松江JCビジョン並びに 松江JCミッション唱和
9. 物故会員追悼
10. 来賓紹介
11. 来訪JC紹介
12. 理事長挨拶
13. 来賓祝辞
14. 祝電披露
15. スポンサーJCへの感謝状贈呈
16. スポンサーJCからの記念品拝受
17. 2021年からの軌跡
18. 第66～70代理事長への感謝状贈呈
19. 次代の松江に対する提言
20. 閉会宣言
21. エンディング映像

記念祝賀会

1. オープニング（立正大学淞南高等学校マーチング）
2. 理事長挨拶
3. 鏡開き
4. 乾杯
5. 歓談
6. 記念品紹介
7. 余興（玉湯まがたま太鼓／書家 石田こーた氏 書道パフォーマンス）
8. 歓談
9. 実行委員長お礼の挨拶
10. 若い我等
11. 応援団エール
12. 閉会

創立70周年記念事業として、ホテル一畑平安の間にて公益社団法人松江青年会議所創立70周年記念式典を執り行いました。オープニングVTRの放映に続き、式典の開会が厳かに宣言されました。

理事長挨拶では、ご来賓の皆様をはじめ、これまで組織を築き支えてくださった先輩諸兄姉や関係各位へ深い感謝と敬意が伝えられました。また、スポンサーJCである一般社団法人広島青年会議所へ感謝状を贈り、広島青年会議所からは記念品を拝受し、これまでの絆への感謝とともに今後の更なる友情を誓い合いました。さらに、2021年から2025年の第66代から第70代理事長の皆様へ感謝状を贈呈いたしました。

「次代の松江に対する提言」では、70年の歴史と志を受け継ぐ現役メンバーとしての覚悟を示し、地域課題の解決と持続可能な未来の創造に向けた力強い提言を発表いたしました。

この記念式典を通じ、70年にわたり紡がれてきた想いを原動力に、自らが情熱を持って最初の一歩を踏み出すことで地域全体にポジティブな連鎖を生み出していくという「行動による共振」の決意を、ご出席いただいた皆様とともに共有する確固たる機会となりました。

記念式典に引き続き、同会場にて創立70周年記念祝賀会を開催いたしました。ご来賓の皆様をはじめ、各地会員会議所メンバーの皆様、多くの特別会員の皆様にご出席いただき、松江青年会議所の大きな節目をともに祝していただきました。

オープニングでは、立正大学淞南高等学校マーチングバンド部の皆様による躍動感あふれる演奏が行われ、華やかに祝賀会の幕を開けました。余興においては、玉湯まがたま太鼓の力強い響きと、書家・石田こーた氏による迫力ある書道パフォーマンスが披露され、会場は大きな感動と熱気に包まれました。

宴の終盤には実行委員長より心を込めたお礼の挨拶が述べられ、参加者全員による「若い我等」と熱い応援団エールをもって、一体感のもと盛大に閉会いたしました。

この祝賀会を通じ、おもてなしの心で皆様をお迎えして感謝の意をお伝えするとともに、人と人、想いと想いが共振し、次代へと繋がる強固な友情と絆をより一層深めることができました。











次代の松江に対する提言

創立70周年を迎え、私たちの生きる現代は、人口減少や価値観の多様化、加速するデジタル化など、日々環境の変わる激変の時代です。先行きの見えない不安がまちを覆う今だからこそ、地域に対して、私たちは「どうあるべきか」を再定義し、地域への約束を明文化する必要があります。

私たちは創立70周年のスローガンとして、「共振～紡ぐ想い、繋ぐ次代。共に行こう、想い描いたその先へ」を掲げました。

この言葉には、「受け継がれてきた想いを行動に変え次代へ繋ぎ、私たち自身が情熱を持って行動し、その行動によって周囲の心を震わせ、巻き込んでいく」という、地域を動かすのは自分たちだという決意を込めています。

私たちが次代へ掲げる覚悟。それは、「言葉」ではなく「行動」で語る組織です。この70年で紡がれてきた想いを原動力に、誰かが動くのを待つのではなく、まず我々青年が一歩を踏み出す。その踏み出す最初の「一歩」が周囲の心を震わせ、市民一人ひとりの能動的な行動へと繋がっていく。我々JCが起点となり、松江全体にポジティブな連鎖を生み出していく。それこそが、私たちが目指すスローガンにある、『行動による共振』です。

①拡大中期計画の策定

私たちは、2031年期首に60名以上の会員数を確保し、毎年9名以上の新たな仲間を迎え入れることを、ここに宣言いたします。

なぜ、私たちがこれほどまでに「数」にこだわるのか。それは、単なる組織の規模を維持するためではありません。私たちが一人の仲間を迎え入れるということは、この松江の地に、未来を背負う当事者を一人増やすということになるのです。一人の情熱は小さな火かもしれませんが、志を一つに動き出したとき、その熱量はまちの景色を塗り替える巨大なエネルギーとなります。拡大運動とは、この松江という街の「希望の密度」を高める運動です。私たちが拡大を諦めないのは、松江の未来を諦めないという決意の証なのです。

②組織の変革「2027年 一般社団法人への移行」

松江青年会議所は、2027年を期して、公益社団法人から「一般社団法人」へと移行いたします。

この決断は、決してこれまでの歩みを縮小させるものではありません。むしろ、この激変する松江の未来に対して、私たちが「より迅速に、より自由に、果敢に挑むため」の、攻めの組織改革です。これまでの公益という枠組みの中では、認可のプロセスや活動の制限により、目の前で起きている地域の急激な変化や課題に対し、スピード感を持って機動的に動くことが難しい側面もありました。しかし、一般社団法人へと移行することで、私たちは行政や他団体との連携をさらに柔軟にし、複雑化する社会課題に対して、JCならではの『尖った挑戦』や『泥臭い実践』を、最前線で、最も早くカタチにすることが可能になります。より地域に近く、より市民に開放された組織へと生まれ変わる。これこそが、私たちが目指す「共振」をさらに加速させるための、前向きな組織の進化なのです。

③松江JCミッションの再定義

この共振の波紋を街全体へと広げていくために、私たちは、これまで受け継いできた松江JCの三つのミッション、【邁進・追求・縁】を、単なる組織の規律ではなく、この時代を生き抜き、挑戦する私たちの「生き様」として、ここに再定義いたします。

■【邁進】地域の課題を調べ、解決に向けて果敢に挑みます

地域の課題を解決することは容易ではありません。しかし、誰かがやらなければなりません。私たちは、誰かが動くのを待つ集団ではありません。松江で最も早く、最も果敢に、暗闇の中に最初の一歩を踏み出す先駆者であり続けます。その泥臭くも真っ直ぐな挑戦の姿こそが、まちに勇気を与え、ビジョンである「愛せる松江」の起点になると信じています。

■【追求】地域のリーダーとなるために常に修練を続け、より良い松江を創造できる人財を増やします

私たちはここで、己を磨き抜きます。修練は時に苦しいものですが、一人の人間が限界を突破し、志を持ったリーダーへと成長したとき、その影響力は一企業、一団体を超え、松江全体を動かす力になります。ここは、松江の未来を背負う人財が、自らの可能性に蓋をせず、高みを目指し続ける場所であり続けます。

■【縁】地域と松江の更なる架け橋となり、相互の理解を深めます

一人の力には限界があります。しかし、松江を想う心は、この会場の至る所に、そして街の至る所に点在しています。私たちは、世代の壁、立場の壁、組織の壁を溶かし、それらの想いを一つに繋ぎ合わせる結節点となります。孤立を排し、対話を生み、新しい価値を創造するプラットフォーム。それこそが、街の全員を巻き込む架け橋です。

④ビジョンの到達点：希望の源泉へ

松江JCビジョン『すべての人が松江を更に愛せるよう運動を展開します』

組織の変革から始まり、ミッションという生き様によって広げた共振の波紋。それが到達する、私たちの究極のゴールが松江JCビジョンです。

私たちは、松江青年会議所の不変のビジョンである「すべての人が松江を更に愛せるよう運動を展開します」という言葉を、今こそ能動的な決意として再定義いたします。ここで言う「愛する」とは、受け身ではありません。自分がこのまちのために何かをなし、関わっているという「手応え」を感じたとき、人はその場所を心から誇りに思い、愛することができるようになります。

私たちが動き、挑戦する。その背中を見た若者が「自分も何かできるかもしれない」と一歩踏み出す。その連鎖が波紋のように広がり、まち全体が能動的な活力に満たされる。「松江JCがいるから、このまちの未来は明るい」そう言ってもらえる存在、私たちが街の「希望の源泉」として輝き続けること。これこそが、私たちが次代へ贈る最大の提言であり、地域への真の約束なのです。

⑤共振への呼びかけ

この理想を実現するためには、我々だけの力ではなく、特別会員の皆様、行政、そして我々を支えてくださる賛助会員の皆様、関係諸団体の皆様、そして各地会員会議所JAYCEEの仲間たち、最後に、松江青年会議所の仲間たち全員の力が必要です。

先輩の皆様たちが築き上げたこの強固な礎があるからこそ、私たちは今、自由に未来を描くことができます。特別会員である先輩の皆様には、どうかこれからも、私たちの歩みが逸れぬよう、70年の歩みを知る先輩方の経験と知恵を以て、進むべき道を指し示す「導き」を。私たちは、その期待をさらに超える姿をお見せすることを誓います。

行政、そして我々を支えてくださる賛助会員の皆様、関係諸団体の皆様には、共に汗をかき、共に泥にまみれ、このまちを共に創る真のパートナーとして、より深い「協働」を。部門を超えた協働から、誰もが愛せる松江を共に創り上げましょう。

各地会員会議所JAYCEEの仲間たちへは、各々の地域を背負い、同じ志を持つ同志として、これからも互いに高め合い、高ぶり合う「切磋琢磨」を。我々の情熱をぶつけ合い、青年会議所運動の価値を高め、この時代を共に揺り動かしていきましょう。

松江青年会議所の仲間たちへは、70年の誇り高き歴史を魂に刻み込み、志を「継承」し、次は私たちが歴史を創る番です。今、私たちが最初の一歩を踏み出します。覚悟と行動で周囲の心を打ち、街を動かし、この松江全体に巨大な「共振」を巻き起こしましょう!

⑥言葉ではなく、行動で。背中で未来を語る

具体的すぎる計画は、時代とともに姿を変えるでしょう。しかし、私たちのこの「志」だけは、次の100周年、さらにその先へと変わらず繋いでいきます。言葉ではなく、行動で。背中で未来を語る。それが、これからの松江青年会議所です。我々が動けば、松江は変わる。松江が震えれば、未来は動く。共にいこう、新しい時代へ。

勝手に面白くする力

～想いを形にして、マチを動かすプロデュース論～

講師：佐久間宣行 氏

2026 年 10 月 24 日（土） 松江テルサ（テルサホール）

創立70周年のスローガン『共振～紡ぐ想い、繋ぐ次代。共に行こう、想い描いたその先へ～』のもと、テレビプロデューサーの佐久間宣行氏を講師にお招きし、公益社団法人松江青年会議所 創立 70 周年記念講演を 2026 年 10 月24日に松江テルサにて開催いたしました。

講演テーマを『勝手に面白くする力～想いを形にして、マチを動かすプロデュース論～』とし、数々の人気番組やブームを生み出してきた佐久間氏から、日常の小さな閃きや違和感を「人を惹きつける企画」へと変える発想法や、周囲を巻き込んで実現させる具体的なアクションについてご講演いただきました。松江の未来を担うすべての人々が、想いを形にして地域を動かすプロデュース視点を持つことで、新たな可能性を感じ、このまちの明るい未来を思い描くことができるような刺激に満ちた時間となりました。また、会場ではキッチンカーによる記念マルシェや70年の歩みを紹介するヒストリーパネル展示も同時開催し、450名を超える多くの皆様にご来場いただきました。

本事業を通じ、参加された皆様一人ひとりが地域の未来に向けて自ら一歩を踏み出す契機を創出するとともに、私たちメンバー自身も当事者としての役割と責任を再認識し、想い描いたその先へと共に進む決意を新たにする、大変有意義な記念事業となりました。



褒章受賞歴

1966 優秀JC賞受賞
(第15回中国地区会員大会)
市民憲章制定。県民会館建設推進などが評価された。

1968 優秀委員会賞
(第17回中国地区会員大会)
松江OAAの結成などが評価された。

1969 青少年問題最優秀賞
(第18回中国地区会員大会)
「21世紀の文明を創る教育のビジョン」討論会。青少年のための
チャリティーショー「宝塚歌劇」などが評価された。

1971 社会開発推進賞最優秀賞
(第20回中国地区会員大会)
交通問題、都市交通問題に対する積極的な取り組みが評価された。

1972 指導力開発優秀賞
(第21回中国地区会員大会)
松江を美しくする運動等を通じて市民の組織化などの活動が評価された。

1973 最優秀賞環境問題賞
(第22回中国地区会員大会)
「水」「緑」「美化」のプロジェクトチームを編成し、市民運動の展開
などの活動が評価された。

1973 優秀賞広報活動賞
(第22回中国地区会員大会)
干拓問題の世論喚起、青少年グループの育成などの活動が評価された。

1974 指導力推進最優秀賞
(第23回中国地区会員大会)
JCC スクール開校などが評価された。

1974 広報活動最優秀賞
積極的な対外広報活動を評価された。

1975 最優秀賞広報活動賞
(第24回中国地区会員大会)
かけがえのない郷土シリーズなどの広報活動が評価された。

1976 AOY(青少年計画)推進賞
(第25回中国地区会員大会)
第 1 回市民のつどい、オリエンテーリング大会、松江市青年団体育成
基金の条例化などが評価された。

1976 自治行政推進賞
(第25回全国会員大会)
地方財政見直しキャンペーン、地方財政をテーマにシンポジウム開催
などの自治問題への積極的な取り組みが評価された。

1978 おまつり推進賞
(第27回全国会員大会)
"松江だんだん" を通してのコミュニティ作り、市民総参加への働き
かけが評価された。

1978 広報活動推進賞
(第27回全国会員大会)
宍道湖大橋の無料化をめざしての対外広報活動など、積極的な対外
キャンペーンの展開が評価された。

1980 青少年開発推進賞最優秀賞
(第29回中国地区会員大会)
中学生「沖縄洋上セミナー」を通じてのジュニアリーダーの育成などが
評価された。

1981 福祉開発推進賞最優秀賞
(第30回中国地区会員大会)
「松江わたぼうしコンサート」などの活動が評価された。

1984 自由部門最優秀賞
(第33回中国地区会員大会)
12年間にわたる「かけがえのない郷土シリーズ」による地域への提言
が評価された。

1987 優秀青年会議所賞
(第36回中国地区会員大会)
30周年記念事業から生まれた、新しい「まちづくり」への発想と、その
展開が評価された。

1988 広報活動推進賞
(第37回中国地区会員大会)
まちづくりのためのひとづくり「まちづくりプロジェクト」が、郷土愛の
醸成へ向けて「松江余談」を刊行した事が評価された。

1992 地域づくり推進賞
(地区フォーラム)
行政の枠組みをこえた活動としてインフィニティーネットワーク構想を
打ち出した事が評価された。

2009 会員拡大事業グループグランプリ
(中国地区第3回会員会議所会議)
年間を通して13名をJCへ入会した事が評価された。

2012 人材育成事業部門優秀賞
(中国地区コンファレンス 2012)
「粋な大人のOMOIYARI 講座」による人材育成について評価された。

2013 人材育成事業部門優秀賞
(中国地区コンファレンス 2013)
松江 JC 地域づくり講演会「地球を元気にまいどスピリッツに学ぶ!」
の人材育成について評価された。

2017 2017年度全国城下町青年会議所連絡協議会アワード発表 優秀賞受賞
「創立60周年記念事業まつえ水都祭2016」

2017 2017年中国地区褒章事業LOM・国際開発部門 優秀賞受賞
「水燈路関連事業「Let's 縁joy YAKUMO festa
～八雲が繋ぐアイルランドとの縁」」

2019 CHUGOKU AWARD 2019 SDGs未来都市部門賞受賞
(中国地区コンファレンス 2019)
「外来種からみんなで守ろう!馬洗い池水抜き救出大作戦」

2024 会員拡大賞　受賞
(中国地区コンファレンス2024)
会員拡大20%純増LOM

編　集　後　記

はじめに、公益社団法人松江青年会議所創立70周年記念誌の発行にあたりまして、原稿依頼に御寄稿いただきました皆様に、心より御礼申し上げます。

この度の記念誌を発行するにあたり、70年に渡る先輩諸兄姉の素晴らしい運動の軌跡、そして努力の賜物、そういったものを改めて感じさせていただく大変貴重な機会となりました。紙面の都合上、掲載することができなかった多くの事業を割愛させていただきましたこと、深くお詫びを申し上げます。

創立70周年のスローガンは「共振 ～紡ぐ想い、繋ぐ次代。共に行こう、想い描いたその先へ～」でございます。この一語に込められた「共振」には、これまで紡がれてきた想いを受け継ぎ、地域の皆様と想いを重ねながら、次の時代へつないでいくという願いが込められております。本誌の編集を通じ、一つの事業が次の事業へ、一人の情熱が次の世代へと受け渡されてきた軌跡をたどるなかで、私たちの活動が決して一人の力ではなく、多くの同志の想いが響き合い共振することで形づくられてきたのだと、改めて痛感いたしております。

70年という節目は、これまでの歩みを懐かしむためのものではなく、先輩諸兄姉から託された想いを、私たちの時代の行動へと変え、さらにその先へと手渡していくための出発点であります。「紡ぐ想い、繋ぐ次代。共に行こう、想い描いたその先へ」という言葉のとおり、この一冊が、世代を超えて想いを共振させ、明るい豊かな松江の創造へと踏み出す一助となりますことを、心より願っております。

末筆ではございますが、この度の記念誌発行にあたり、編集にご協力をいただきました全ての皆様に対しまして、心より御礼を申し上げます。誠に有難うございました。

公益社団法人松江青年会議所
70周年実行特別委員会
幹　事　田本　啓

松江青年会議所創立70周年記念誌

発　行　2026年11月30日

発行所　公益社団法人松江青年会議所
理事長　落合　彰
島根県松江市母衣町55-4　7階
TEL　0852-21-9917
FAX　0852-26-3119

編　集　70周年実行特別委員会
実行委員長：宮田佳祐
副実行委員長：遠藤卓郎
幹　　事：田本　啓
副 幹 事：狩野尚太
副 幹 事：木村　龍


70th
ANNIVERSARY
共
MATSUE JC
振